

修士論文

音読評価基準の設定と授業外フィードバックを導入した韓国語音読教育の設計と実践

Design and Tryout of Evaluation Criteria of Reading Aloud and Out-of-Class Feedback  
in Korean Language Class.

社会文化科学研究科 教授システム学専攻 博士前期課程

154g8820

山下 藍

指導(主)：平岡斉士准教授

指導(副)：戸田真志教授、鈴木克明教授

2017年2月

## 目次

要旨（日本語） .....	1
Abstract .....	2
第1章 はじめに .....	4
1.1 研究の背景 .....	4
1.2 研究の目的 .....	5
1.3 先行研究 .....	6
1.4 研究の構成 .....	7
第2章 従来音読教育の問題点 .....	9
2.1 研究対象となる教育機関と学習者 .....	9
2.2 研究対象となる授業概要 .....	10
2.3 従来教育の流れ .....	11
2.4 従来教育の問題点 .....	13
第3章 改善版教育の設計 .....	15
3.1 解決策と指導方略の導入 .....	15
3.2 音読チェックリストの作成 .....	16
3.2.1 評価項目の明確化 .....	16
3.2.2 評価方法 .....	17
3.2.3 前後期音読チェックリストの違い .....	17
3.3 授業外フィードバックと改善機会の導入 .....	19
3.4 改善版音読教育の設計 .....	20
3.5 反転授業との違い .....	29
第4章 改善版教育実践と結果 .....	31
4.1 改善版音読教育実践概要 .....	31
4.1.1 対象者 .....	31

4.1.2	学習目標.....	32
4.1.3	検証方法と目的.....	32
4.2	検証結果.....	33
4.2.1	口頭試験結果.....	33
4.2.2	アンケート結果.....	35
4.2.3	音読課題提出と到達状況.....	44
4.2.4	自己評価と教員フィードバックの差.....	47
第5章	考察.....	50
5.1	音読評価基準の明確化による学習効果.....	50
5.2	自己評価と教員フィードバックによる学習効果.....	51
5.3	音読練習と発音改善の促進.....	53
5.4	発音の定着.....	54
5.5	設計上の妥当性と改善点.....	56
5.6	考察のまとめ.....	57
第6章	おわりに.....	58
6.1	まとめ.....	58
6.2	今後の課題と展望.....	59
	謝辞.....	60
	参考文献.....	60
	資料.....	62

## 要旨（日本語）

日韓両言語は文法や語彙などの類似性が強調されながらも、発音に関しては全く異なる体系を取るため、学習の初期段階から音韻変動を含めた発音教育の強化が必要である。しかし、文字と発音を学習し終えたばかりの学習者にとって音韻変動を含む音韻システムの習得は容易ではない。韓国語の発音習得のために、筆者はこれまで大学の韓国語入門、初級レベルの授業において、教科書の会話文を通じた音読練習と個別の音読指導を実施してきた。しかし、週に1コマ90分という限られた時間で音読練習の機会を設けることは困難であり、個別音読指導時に学習者の発音を確認しても、発音習得が正しく行われていないケースが少なくなかった。そこで本研究では、学習者の音読練習と発音習得促進のために、韓国語音読教育の設計と実践を行い、その効果を検証した。

従来教育の問題として、音読評価基準を明確に示していないこと、フィードバックが遅く改善の機会がないことが確認され、これらを解決する指導方略として、音読評価基準を明確にした音読チェックリストの作成と授業外フィードバックを通じた改善機会の導入を行った。

教育実践による検証の結果、音読評価基準の明確化、および自己評価と教員フィードバックを通じた改善機会の提供により、音読練習と発音改善が促進され、これらを繰り返したことで、発音定着につながったと考えられる。音読練習の促進と発音改善が行われた根拠として、音読課題の提出率がほとんどの課において9割以上であったこと、週に2, 3回以上の練習を行った学習者が前後期ともに8割以上であったことが挙げられる。発音定着の根拠として、前後期の口頭試験における総合点9割以上取得者が前期と比べ後期で17%増加したこと、自己評価と教員フィードバックの差が前期よりも後期で縮まっていることから、学習者が正しい発音を認識できるようになり、学習初期段階に比べ自分で自分の発音を改善できる能力が身についたと考えられる。

一方で、学習者の韓国語発音に対する自信が他のデータ結果と比べ高くないことから、学習結果が発音の自信へ十分につながっていないことが明らかになった。今後、より多くの文章を通じた音読機会の提供と課題提出方法の簡素化をもとに再設計を行うことで、学習者のさらなる音読練習の促進と早い段階でのデコーディング自動化が期待でき、最終的に韓国語発音に対する自信にもつながると考える。

## Abstract

While emphasizing the similarities between the Japanese and Korean languages in areas such as grammar and vocabulary, since their systems of pronunciation are totally different, it is necessary to strengthen the teaching of pronunciation, including phonological variations, from an early stage of learning. However, it is not easy for a student who has just finished learning characters and pronunciation to learn a phoneme system, including phonological variations. In order to acquire pronunciation of Korean, the author has up until the present been using university beginner and elementary level Korean language classes to practice reading aloud using textbook conversation examples and has taken individual instruction in reading aloud. However, it is difficult to set up opportunities for practicing reading aloud in a limited time of one 90-minute lesson per week, and even if the learner's pronunciation is checked when receiving individual reading tuition, there are many cases where pronunciation is not being learned correctly. Therefore, in this study, in order to speed up the learner's reading practice and acquisition of pronunciation, I designed and carried out Korean language teaching using reading aloud, and verified its effectiveness.

It has been confirmed as a problem of conventional education that the evaluation criteria for reading aloud cannot be pinpointed, feedback is slow, and there is no opportunity for improvement. As a teaching strategy to solve these problems, I made a reading aloud checklist with clear criteria for reading aloud evaluation and introduced opportunities for improvement through out-of-class feedback.

The results of the verification by educational implementation were that through clarification of the reading aloud evaluation criteria and the provision of opportunities for improvement by way of self-evaluation and teacher feedback, reading aloud practice and pronunciation improvement were seen to speed up, and through their repetition, it can be considered to lead to pronunciation being established. As evidence that pronunciation practice was promoted and pronunciation improved, it can be stated that the submission rate of reading-aloud tasks was 90% or more in most sections, and the percentage of learners who practiced more than 2-3 times a week was

more than 80% in both the first and second terms. As evidence that pronunciation was established, in the overall scores in the first and second term oral examinations there was a 17% increase in the number of test takers who scored 90% or more over the previous period; because the difference between self-evaluation and teacher feedback shrank in the second term compared to the previous term, I believe that learners became able to recognize the correct pronunciation, and acquired the ability to improve their pronunciation on their own compared to the early learning stage.

On the other hand, since the learners' confidence in their Korean pronunciation was not high compared to other data results, it became clear that the learning outcome was not sufficiently connected to confidence in pronunciation. In the future, by redesigning and providing reading aloud opportunities with more sentences and simplifying the submission method, it can be expected that learners' pronunciation practice can be further promoted and decoding become automatic at an early stage, and I think that this will eventually lead to confidence in Korean pronunciation.

## 第1章 はじめに

### 1. 1 研究の背景

外国語としての韓国語教育において、正確な発音教育は円滑な意思疎通の実現のためにとても重要な役割を担い、どんなに韓国語の語彙と文法を正確に理解していても、間違った発音で表現されれば自分の意志を自信をもって正確に伝えることはできない(이, 2012)。特に韓国語は、音節と音節の間で多くの音韻変動が起こり、このような音韻変動を学習しなければ聞き取りや発話時に多くの誤用発生が予想される(박, 2016)。이(2012)が2010年10月から2011年5月にかけて韓国国内で韓国語を学ぶ日本人初級学習者37名を対象に実施した発音に関する認識調査の結果、「発音が正確ではなく意志疎通で困難を感じたことがある」と回答した学習者は全体の9割を占め、その理由として48.6%が「母国語にならない発音であるため」と回答し、24.3%が「韓国語には発音規則が多いため」と回答した。このことから理解できるように、日韓両言語は文法や語彙などの類似性が強調されながらも発音に関しては全く異なる体系を取るため、学習の初期段階から音韻変動を含めた発音教育を強化していく必要がある。

しかし、文字と発音を学習し終えたばかりの学習者にとって音韻変動を含む音韻システムの習得は容易ではない。そのため「文字列を音声化する練習」(中森, 2010)である音読を通し、正しい音韻システムを身につけていく必要がある。音読とは、声を出して読むこと(国語辞典, 旺文社, p.219)であり、米崎(2012)が述べるように、外国語教育における伝統的な教授法の1つである。石田、他(2013)でも、英語教育の立場から音読の意義の1つに、音声を文字と結びつけることを挙げており、これにより英語の文字と音の対応関係や規則を理解できるようになると説明している。更に、石田、他(2013)では、音読の練習を行わなければ、たとえ英文の意味がわかったとしても、その英語を意味の通じる音やリズムで発音できないため、相手に理解させられる音声英語が習得できないと述べている。つまり、外国語教育において音読は、正しい発音の習得と、音声と文字の一致を実現させ、その後の言語知識や言語運用能力にも影響を与えると考えられる。

韓国語の発音習得のために、筆者はこれまで大学の韓国語入門、初級レベルの授業において、教科書の会話文を通した音読練習と個別の音読指導を実施してきた。しかし、週に1コマ90分という限られた時間の中で、音読を通した十分な発音練習機会を設けることは困難であり、個別音読指導時に学習者の発音状況を確認しても、発音習得が正しく行わ

れていないケースが少なくなかった。初期段階の音読について土屋（2004）は、学習者に音韻システムについてのメタ言語的知識がないため、モデルについて読みながら、学習者が自分の読みをできるだけモデルに近づけるというものだと説明する一方で、確実に音韻システムを獲得するためには、学習者が自力で音読練習ができる能力を獲得することが重要であり、それができるように指導するのが教師の役目であると述べている。特に、授業時間に制限がある場合、授業以外での発音練習は欠かせず、発音習得のための適切な支援を行っていく必要がある。そこで本研究では、学習者の発音練習機会を増やし、発音習得を促進させるために、従来教育の問題を見直し、効果的な音読教育の設計と実践を行った。

## 1. 2 研究の目的

本研究では、音読評価基準の設定と授業外フィードバックを導入した韓国語音読教育の設計と実践を行い、実践結果を通し、発音練習促進と発音習得の有効性を明らかにすることを目的とする。この研究の目指す方向性について、藤本（2013）で示された音読の熟達度に従い、図1で示した。本研究での対象者は、文字と発音の学習を終えたばかりであるため、文字と音が一致していない Level 0 の状態であるといえる。藤本によれば、Level 0～1の学習者はまず、Level 2のデコーディング自動化を目指すべきであり、デコーディングができて初めて単語の認知が可能になるという。デコーディングの自動化のためには、音読練習を繰り返し行うことが重要であるため、本研究では、学習者が会話文の音読を通し、授業で学習した発音を正しく習得することを学習目標とし、その積み重ねで最終的にデコーディングの自動化に到達するものとする。



図1：音読の熟達度（藤本で示されたものをもとに作成した）

### 1. 3 先行研究

外国語教育での音読実践に関する研究は、主に英語教育の分野で確認できる。藤代、宮地（2009）では、高等学校英語科において WBT 活用によるブレンド授業を実施し、学習者の音読力、自由発話内容の深化と正確さの向上を報告している。この研究では音読活動として、一斉授業後の個別音読練習と、学習者同士の相互評価を通じた発音改善機会の提供を行っている。橋本、東原（2002）では、中学校 1 学年を対象にした英語科目において、ポートフォリオ評価活動を取り入れた音読授業を実施し、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」の 3 領域に関する表現力と学びの質の高まりを報告している。この研究での音読活動もまた、個別の音読練習と、評価基準に従い自己評価と相互評価を行い、評価をもとに音読の改善を行う機会を提供している。更に、鈴木、他（2009）では、中学生と大学生を対象とした音読能力測定ソフト「SpeaK!」による個別の繰り返し音読練習の結果を比較し、対象者の音読能力（単語を見て音声化できる能力）の向上を報告している。「SpeaK!」は、モデル音声を必要に応じて聞くことができる上に、マイクを通して英文を読むと、学習者の音読能力をグラフで視覚的に評価（鈴木、他、2009）してくれるソフトである。韓国語には、このように自動で発音の測定を行うソフトが存在しないため、学習者の音読に対する即時フィードバックが困難である。そのため、教育設計の際、学習者が自分の発音状況を理解しながら発音練習を進められるように考慮する必要がある。

以上の既存研究における音読活動をまとめると図 2 のようになる。学習者が自分のペースで練習を行い、自己評価と相互評価を通し、自分の学習状況を正確に把握でき、改善の機会を設けることで定着に結びつくという過程である。これら先行研究で示された音読活動は、学習者の音読練習を促進させ、正しい発音を定着させるのに大変意義のあるものであり、韓国語教育分野においても適用できると期待できる。

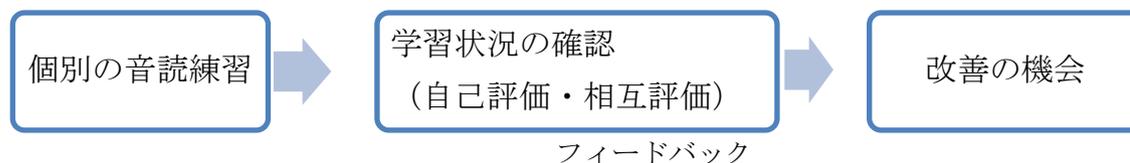


図 2：既存研究における音読活動の流れ

藤本（2011）では、音読教育の問題点において、音読をやったらやりっぱなしにすること、つまり評価が行われないことを 1 つに挙げており、図 2 で示した音読活動を行うにも

明確な評価基準の設定が不可欠である。김 (2006) では、韓国語教育において、発音の誤用矯正の診断と評価を行うための発音誤用記録表を作成し、学習者の発音診断時に、誤用を記録表に記入しフィードバックすることを提案している。この研究で示された発音誤用記録表は、学習者に自身の発音到達状況を知らせ、正しい発音を習得させる上でとても重要なものであり、本研究において大変意義のあるものである。しかし、具体的な教育実践については示されておらず、また、この研究以外で韓国語教育分野での音読や発音矯正に関する研究事例は見られない。韓国語発音教育に関する研究は、이 (2008) が指摘するように韓国語教育での他の領域に比べ、その関心は絶対的に不足傾向にある。また、既存研究での教育対象者の多くは留学生として韓国国内で学ぶ学習者であり、日本の大学で韓国語を学ぶ学習者を対象とした研究はほとんど見当たらない。韓国で留学生活を送りながら日々、韓国語で授業を受ける学習者とは違い、日本の大学で韓国語を学ぶ学習者の多くは、週に1コマという制限された環境<sup>1</sup>にある。本研究では、このような学習者の学びを支援するため、授業外、および単独での学習を想定した教育設計と実践を行い、学習者の音読練習の促進と発音定着の向上を目指す。

#### 1. 4 研究の構成

本研究は6つの章にもとづき研究を進める。各章の概要を以下で説明し、研究のプロセスについて図3にまとめた。

第2章では、ガニエの9教授事象に当てはめ、従来教育の問題を抽出する。

第3章では、問題に対する解決策を明確に提示し、これらに合わせ既存研究から得た音読活動の導入と改善版音読教育の設計を行う。

第4章では、改善版教育の実践と、発音練習と発音定着促進に関する効果検証を行い、その結果について提示する。

第5章では、改善版教育で導入した指導方略により、従来教育における問題解決、および研究のゴールである発音練習と定着促進に関する考察を行う。

第6章では、本研究でのまとめを行うとともに、今後、取り組むべき課題と展望について述べる。

---

<sup>1</sup> 公益財団法人国際文化フォーラムが2005年に発行した『日本の学校における韓国朝鮮語教育—大学等と高等学校の現状と課題—』によると、韓国語を週当たり1コマ実施している4年生大学は74.5%であり、短期大学においても83.2%が週1コマの授業を行っているという結果であった。

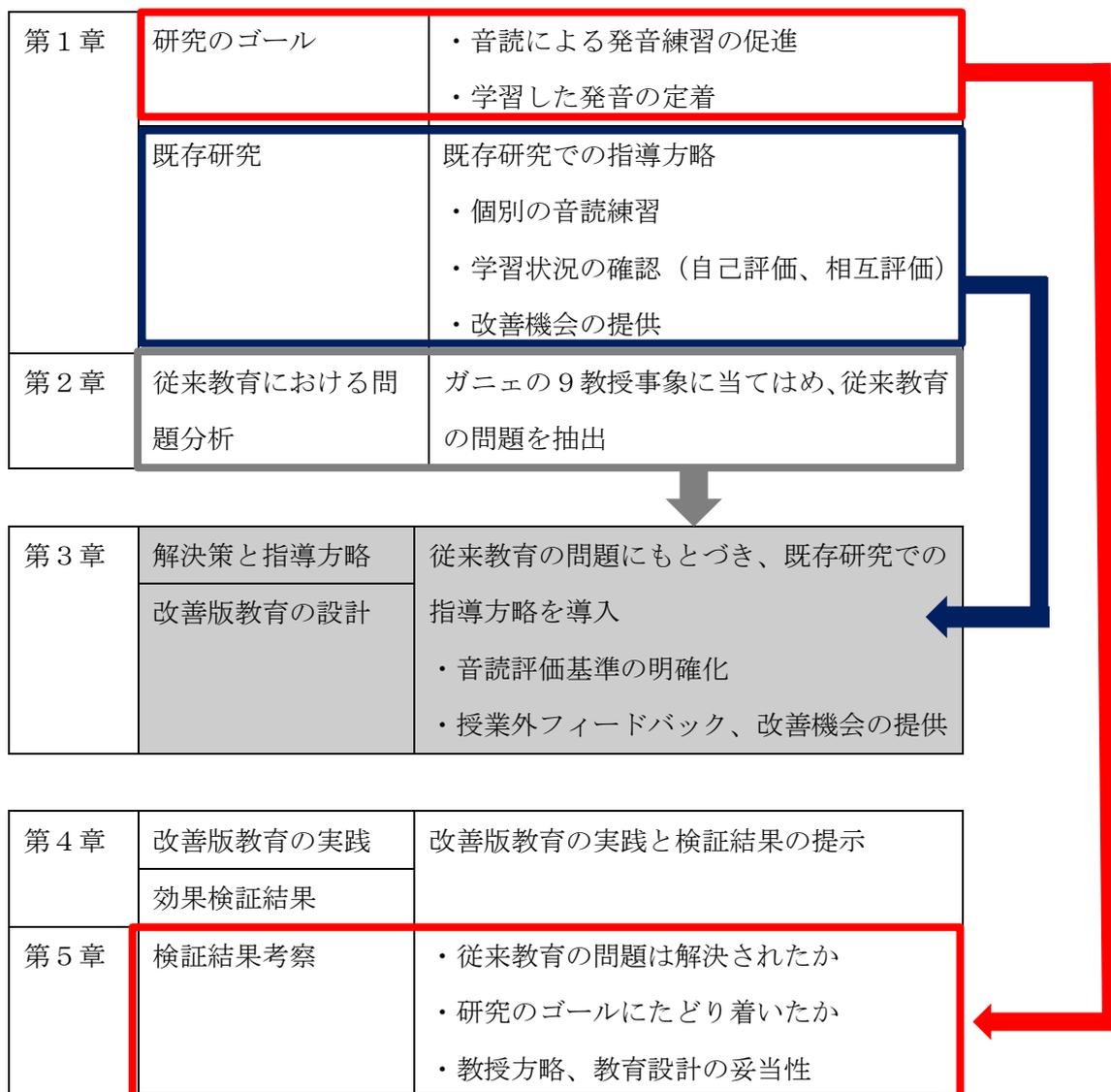


図3：本研究の目的とプロセス

## 第2章 従来音読教育の問題点

### 2. 1 研究対象となる教育機関と学習者

研究対象となる教育機関は、宮崎県内にある人文系統の大学であり、「教養あるグローバル人材の育成」の理念のもと、英語は勿論、中国語と韓国語の東アジア言語の教育にも力を入れている。韓国語は中国語と同様、選択必修科目として位置付けられ、1年次にどちらかを選択し、単位を取得する必要がある。韓国語科目は、卒業時まで中級レベルの語学力習得を目標に、「韓国語Ⅰ」から「韓国語Ⅵ」の科目を開講している。1年次の前期に開講される「韓国語Ⅰ」は、文字と発音の習得から学習が始まり、初歩的な文型（ロニダ体とヨ体の確立）と語彙等を学ぶ入門レベルである。前期に「韓国語Ⅰ」の単位を取得した学習者は、後期開講の「韓国語Ⅱ」を履修する。授業開始前にはクラス分けが行われ、学習者は自分の目的や学習スタイルに合わせ、強化班と普通班のクラスを選ぶことができる。強化班では、卒業時まで高度なレベルの韓国語習得を目指し、中には大学入学以前から韓国語学習を始めている学習者も含まれる。授業では、暗記暗唱の教授法を導入し、文字と発音をはじめ、文型や語彙等の強化は勿論、話すや聞く等の言語活動技能の習得を想定した授業が実施される。一方、普通班では、暗記暗唱ではなく、音読による教授法を導入し、言語活動を行うための前段階として文字と発音、初歩的な文型と語彙等の習得に焦点を当てた授業を行う。本研究では、普通班に属する学習者を対象に研究を進める。普通班の学習者は、強化班の学生ほど韓国語習得に関する目的がはっきりしていない傾向にあるものの、多くの学習者が韓国や韓国語に興味を持ち、授業に臨んでいる。2016年度「韓国語Ⅰ」の授業開始時に実施した事前アンケートの結果、「韓国、韓国語に興味を持っている」と答えた普通班の学習者は全体の97%を占め、「韓国語を取得して目指すこと」に関しては、旅行と回答した27%に続き、21%の学習者が韓国語関連の検定試験を目的としており、中には留学や就職を視野に入れている学習者も存在した。これらの学習者が1年次の履修だけに留まらず、より高度な韓国語の習得を目指し2年次以降も学習を継続するために、「韓国語Ⅰ」と「韓国語Ⅱ」での学習は、韓国語の基礎固めだけではなく、韓国語習得に関する意欲と意思決定に大きく影響を与えると考えられる。

## 2. 2 研究対象となる授業概要

研究対象となる「韓国語Ⅰ」と「韓国語Ⅱ」の授業計画は表1、2の通りである。指定教材（木内明著、2013、「基礎から学ぶ韓国語講座初級改訂版」、国書刊行会）に従い、授業を進めるが、一部、文法の難易度等を考慮し、学習者が習得しやすいように単元の学習順序を変更し授業を行った。

表1：韓国語Ⅰ授業計画

回	学習内容	備考
1	ガイダンス、授業の説明	
2	基本母音、基本子音	韓国語の基礎である文字と発音の学習
3	激音、濃音、複合母音	
4	パッチム	
5	発音変化	
6	まとめ、中間試験	
7	会話文第1課	 <p>(研究範囲)</p> <p>各課会話文を通した音読学習の開始</p>
8	会話文第2課	
9	会話文第3課	
10	会話文第4課	
11	会話文第5課	
12	会話文第7課	
13	会話文第8課	
14	会話文第6課	
15	期末口頭試験	7～14回で学習した内容を出題
16	期末筆記試験	2～14回で学習した内容を出題

表 2 : 韓国語Ⅱ授業計画

回	学習内容	備考
1	授業の説明、前期の復習	
2	会話文第 9 課	 <p>(研究範囲)</p> <p>各課会話文を通した音読学習</p>
3	会話文第 10 課	
4	会話文第 11 課	
5	会話文第 12 課	
6	会話文第 13 課	
7	会話文第 14 課	
8	会話文第 15 課	
9	会話文第 19 課	
10	中間口頭試験	
11	会話文第 16 課	メディア、文化講座を取り入れた授業
12	会話文第 17 課	
13	会話文第 18 課	
14	会話文第 20 課	
15	まとめ	
16	期末筆記試験	2～14回で学習した内容を出題

研究対象となる範囲は、文字と発音学習の終了後、会話文を伴った音読学習開始からである。「韓国語Ⅰ」の7～14回と、「韓国語Ⅱ」の2～9回であり、前期と後期で各8回ずつ、計16回の音読教育を実施した。

### 2. 3 従来教育の流れ

筆者がこれまで行って来た授業全体の流れを、発音、音読関連活動を含め、表3に提示した。

表 3. 授業の流れ

授業順序	授業活動	活動の詳細	時間
発音・音読以外の学習			
1	前回の復習	・課題プリントの答え合わせを行いながら、前回の授業内容に関する解説を行う	10分
2	単元の文法、語彙等の学習	・文法、語彙等の説明を1要素当たり3～5分程かけて行う（学習要素は1単元当たり2～3個） ・練習問題を解く時間を1要素当たり5～10分程与える ・練習問題の解説を3～5分程かけて行う	40分
発音・音読関連の学習			
3	会話文の解説と全体練習	・これから練習を行う模範音声を聴かせる ・会話文で音韻変化が起こる部分に印をつけたレジュームを表示し、何の音韻変化が起きているのかを考えさせる ・音韻変化が起こる部分に、実際の発音をハングルで記入させる ・1行ずつ意味と発音を確認した後に、全体での発音練習を数回行う	15～ 20分
4	個別音読指導	・前回の授業で学習した会話文を学習者1人ひとりに対し1行ずつ発音をさせ、その場で改善点を口頭で伝える	20～ 25分

90分の授業の中で、発音に関する説明、練習が行われるのは15～20分程（表3の3参照）で、個別音読指導が行われる時間は20～25分程（表3の4参照）である。表3の3では、教科書の会話文を通し、日本語の意味と発音方法に関する解説を行う。1行ずつの意味と発音を確認しながら、全体での練習を行うが、解説に時間がかかるため、学習者個別の練習機会はない。学習者には、その日に学習した会話文の音読練習を課題として与えているが、実際に練習を行っているかどうかを確認するのは不可能であり、あくまでも学習者の任意に任せるしかない。

授業の最後に表3の4で表示した個別音読指導を行い、前回の授業で学習し、自宅で練習を行って来た会話文の発音に対するフィードバックを与える。学習者一人ひとりに1回ずつ発音をさせ、改善点の提示を口頭で行う。学習者1人当たりの指導時間は1、2分程である。

## 2. 4 従来教育の問題点

表3で示した従来教育をガニエの9教授事象<sup>2</sup>に当てはめ分析を行った。その結果、明らかになった問題点について述べる（図4参照）。

まず、音読の評価基準が明確でないため、「2. 目標を知らせる」が行われていない点がある。そのため、学習者がどこをどのように学習すべきか理解できないまま学習を行っている可能性があり、フィードバックの際も学習者に対しどこを間違えていてどのように改善すべきなのかを具体的に提示できていないと考えられる。

次に、「7. フィードバック」に関することである。フィードバックを与えるのが1週間後であり、それよりも早いフィードバックができないため、学習者が間違っただけで発音を行っていたとしてもすぐに指摘できない。間違っただけで発音のまま音読練習を行えば、誤った発音を身につけてしまい、後の発音改善が困難になる可能性がある。

最後に、「8. 学習成果の評価」と「9. 保持と転移」に関して、フィードバック後の改善が行われていないことが問題として挙げられる。個別音読指導時にフィードバックを行っても、その後に改善の機会がなければ、発音が確実に改善されたかどうかを確認することはできない。また、時間的な問題から、他の授業活動の時間を短くし、発音と音読関連の時間を増やすことは不可能なため、従来の時間内で教育改善を行う必要がある。

---

<sup>2</sup> 鈴木（2002）によると、ガニエは指導過程を「学びを支援するための外側からのほたらきかけ（外的条件）」と言う視点でとらえ、理論と実践の両面から学習を支援する授業構成を9種類に分類することが有効であるという結論から9つの教授事象と名付けたという。従来教育を9教授事象に当てはめ分析を行うことで、学習者の音読学習を適切に支援できているのか、できていないとしたらその問題点は何なのかについて正確に把握できるのではと考えた。

授業活動	ガニエ9教授事象	問題点
1. 前回の復習(10分) 2. 教科書の文法、語彙等の学習(40分)		音読以外の授業活動をこれ以上減らすことはできない
3. 会話文の解説と全体練習(15~20分) ・これから練習を行う模範音声を聴かせる ・会話文で音韻変化が起こる部分に印をつけたレジュメを表示し、何の発音変化が起きているのかを考えさせる ・発音変化が起こる部分に、実際の発音をハングルで記入させる ・1行ずつ意味と発音を確認した後に、全体での発音練習を数回行う	1. 学習者の注意喚起 4. 新しい事項の提示 3. 前提条件を思い出させる 5. 学習の指針を与える	学習目標が明確ではないため、「2. 目標を知らせる」が行われていない  どこを間違えていて、どのように改善すべきか十分に理解できない
4. 個別音読指導(20~25分) ・前回の授業で学習した会話文を学習者に発音をさせその場で改善点を口頭で伝える		
その日に学習した会話文を自宅で練習	6. 練習の機会	
↓ 一週間後 ↓		
1. 前回の復習 2. 教科書の文法、語彙等の説明、練習問題		フィードバックが1週間後で、それよりも早いフィードバックができない
3. 会話文の解説と全体練習		
4. 個別音読指導	7. フィードバック	改善の機会がなく、「8. 学習成果の評価」と「9. 保持と転移」が行われていない

図4：従来音読教育の問題点

### 第3章 改善版教育の設計

#### 3. 1 解決策と指導方略の導入

図4で示した従来教育の問題を「指導方法と内容」、および「授業時間」に関する問題に分け、解決策と指導方略を表4に提示した。問題とその解決策に合わせ、既存研究で示された音読活動を指導方略として導入した。

表4. 従来教育の問題に関する解決策と指導方略

	指導方法と内容	授業時間	
問題点	音読評価基準を明確に示していない	音読以外の授業時間を減らし、音読授業を増やすことはできない	フィードバックを与えるのが1週間後であり、それよりも早いフィードバックができない
	学習者に対してどこを間違えていてどう改善すべきなのかについて具体的に伝えられず、学習者自身もそれを理解できていない	い	フィードバック後の練習、改善の機会がない
解決策	音読評価基準を明確にする	授業外での練習、改善の機会を作る	
		次の授業を待たずに、授業外でもフィードバックを提供し、改善の機会を提供する	
指導方略	音読チェックリストの作成	授業外フィードバックと改善機会の導入	

「指導方法と内容」に関する問題として、音読評価基準が明確ではないため、学習者にどこを間違えていてどのように改善すべきなのか具体的に伝えられないことが挙げられる。これを解決するために、音読評価基準を明確にする必要があり、指導方略として「音読チェックリストの作成」を行った。評価基準の明確化により、学習者にどこを間違え、どのように改善すべきなのかについて具体的なフィードバックを提供でき、音読練習と発音改善につなげることが期待できる。

次に、「授業時間」の問題について、90分間すべてを音読教育にあてることができないため、フィードバックの後の改善機会を提供できないこと、さらに、学習後のフィードバ

ック提供が1週間後であり、それよりも早いフィードバックができないことが問題として挙げられる。この問題の解決策として、授業外フィードバックと改善機会の導入を行うことで発音改善の場を提供でき、発音定着に繋がれると考える。

### 3. 2 音読チェックリストの作成

#### 3. 2. 1 評価項目の明確化

会話文の正しい発音のために、評価項目の明確化を行った。会話文には文字と発音が異なる音韻変化が多く出現し、その種類も多いため、文字と発音、音韻変化の学習を終えたばかりの学習者にとってこれらの学習は容易ではない。そこで、音韻変化が起きる箇所と全体の文字の発音、発音速度を含めた評価項目を表5のように作成した。

表5：会話文第1課評価項目

種類	評価項目	配点
音韻変化	「안녕하십니까?」を弱音化と鼻音化で「안녕아십니까」と発音できる	2
	「안녕하세요?」を弱音化で「안녕아세요?」と発音できる	1
	「저는 (自分の名前) 입니다」を鼻音化で「저는 (自分の名前) 입니다」と発音できる	1
	「일본사람입니다」を連音化と鼻音化で「일본사라입니다」と発音できる	2
	「저는 박철수라고 합니다」を鼻音化で「저는 박철수라고 합니다」と発音できる	1
	「학생입니다」を濃音化と鼻音化で「학생입니다」と発音できる	2
	「수학입니다」を連音化と鼻音化で「수하입니다」と発音できる	2
全体	1文ずつ適切な速度で発音できる	1
	文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できる	1

表5で示した通り、会話文第1課では、音韻変化が11回起きており、全体の速度と文

字の発音に関する評価を含めると、評価の対象となる項目は全部で13個である。

### 3. 2. 2 評価方法

評価の点数化にあたり、評価項目の総数を5等分にした5段階評価を採用した。評価項目の総数は各課で異なるため、正答率が8割以上の場合は評価5を与え、7割以上の場合は評価4を、そして7割以下を評価3、2、1で分け、点数を決定した。点数による評価の配分例を表6で提示した。

表6：第1課評価点数

評価項目数	点数	正答率
12～13	5	8割以上
10～11	4	7割以上
7～9	3	6割以下
4～6	2	
1～3	1	

### 3. 2. 3 前後期音読チェックリストの違い

前期では、表5と表6に従い音読チェックリストを作成したが、後期では評価の項目と基準の変更を行った。前後期の音読チェックリストの違いを表7で提示した。

表7：前期と後期の音読チェックリストの違い

	評価項目	評価基準
前期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音韻変化が起きる部分</li> <li>・全体の速度</li> <li>・<u>全体の文字の認識</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>評価5を正答率8割以上</u>、評価4を7割以上、評価3以下を7割以下とした</li> <li>・評価4（正答率7割以上）を合格とした</li> </ul>
後期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音韻変化が起きる部分</li> <li>・全体の速度</li> <li>・<u>1文ずつの文字の認識</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>評価5を正答率9割以上</u>、評価4を8割以上、評価3以下を8割以下とした</li> <li>・評価5（正答率9割以上）を合格とした</li> </ul>

表7の通り、前期では、音韻変化が起こる部分を中心に評価項目を作成したが、後期では音韻変化だけではなく、1文ずつの文字の発音も評価項目に含めた。また、評価基準においても、評価4（正答率7割）以上を合格としていた前期に比べ、後期では難易度を上げ、評価5（正答率9割以上）を合格とした。前期の音読チェックリストは図5、後期の音読チェックリストは図6の通りである。

### 第1課会話文 チェックリスト

\* の部分は、発音変化の箇所

NO	行数	チェック項目	自己評価		フィードバック	
			弱	鼻	弱	鼻
1	①	「안녕하십니까?」を弱音化と鼻音化で「안녕하십니까?」と発音できている。	弱	鼻	弱	鼻
2	②	「안녕하세요?」を弱音化で「안녕하세요?」と発音できている。	弱		弱	
3	③	「저는 (自分の名前)입니다」を鼻音化で「저는 (自分の名前)입니다」と発音できている。	鼻		鼻	
4	④	「일본 사람입니다」を連音化と鼻音化で「일본 사람입니다」と発音できている。	連	鼻	連	鼻
5	⑤	「저는 박철수라고 합니다」を鼻音化で「저는 박철수라고 합니다」と発音できている。	鼻		鼻	
6	⑥	「학생입니다」を濃音化と鼻音化で「학생입니다」と発音できる。	濃	鼻	濃	鼻
7	⑦	「수학입니다」を連音化と鼻音化で「수학입니다」と発音できる。	連	鼻	連	鼻
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい		はい	
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい		はい	

音韻変化のみ

全体の速度  
全体の文字の発音

### 第1課評価点

チェック項目数	点数	評価
12~13	5	
10~11	4	
7~9	3	
4~6	2	
1~3	1	

評価5：正答率8割以上

評価4：正答率7割以上

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント

図5：前期音読チェックリストの例

第9課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価		フィードバック	
1	「아저씨, 이 리서크 얼마예요?」を正しく発音できている。	文字		文字	
2	「그건 이만 오천원입니다」を連音化(×3)と鼻音化で「그건 이마 노천원입니다」と正しく発音できている。	連	連	連	連
		連	鼻	連	鼻
		文字		文字	
3	「좀 비싸요」を正しく発音できている。	文字		文字	
2	「그림 이걸 어떻게?」を連音化で「그림 이거 너때요?」と正しく発音できている。	連	文字	連	文字
3	「이건 만 원만 주세요」を連音化で「이건 마 원만 주세요」と正しく発音できている。	連	文字	連	文字
4	「좋아요. 이거 주세요」を無音化で「조아요」と正しく発音できている。	無	文字	無	文字
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。				

音韻変化、1文ずつの文字の発音

全体の速度

第9課評価点

チェック項目数	点数	評価
13~14	5	
10~12	4	
7~9	3	
4~6	2	
1~3	1	

評価5：正答率9割以上  
評価4：正答率8割以上

自己評価コメント (任意・自由記述)	
フィードバック (良かった点)	フィードバック (改善点)

図6：後期音読チェックリストの例

3. 3 授業外フィードバックと改善機会の導入

音読チェックリストを通し、学習者が自分の発音を振り返り、教員が学習者に具体的なフィードバックを与える機会を導入した。図5と6の通り、音読チェックリストには、学習者が行う自己評価欄と、発音に関する質問等を任意で書き込む学習者コメント欄を設定し、更に、教員が学習者の発音評価を行うフィードバック欄と、具体的な改善方法を書き込むための教員コメント欄を設定した。自己評価を行う理由として、学習者が正しく自己評価を行えるようになれば、正しい発音の認識は勿論、自分で発音改善と発音定着ができ

るようになると考えたためである。それを支援するには、教員によるフィードバックが必要であり、正しく自己評価ができていないか、評価項目をクリアできているか、達成できていない場合はどのように改善を行うべきかについて明確に提示する必要がある。

### 3. 4 改善版音読教育の設計

「音読チェックリストの作成」、および「授業外フィードバックと改善機会の導入」に従い、改善版音読教育の設計を行い、改善前後の音読教育を表8で提示した。

表8：改善前後音読教育の比較

	改善前	改善後
授業内	1. 前回の復習 (10分) 2. 教科書の文法、語彙等の学習 (40分)	
	3. 会話文の解説と全体練習 (15～20分) ①これから練習を行う模範音声を聴かせる ②音読チェックリスト (評価内容) を提示する ③会話文で音韻変化が起こる部分に印をつけたレジユメを表示し、何の変化が起きているのかを考えさせる ④音韻変化が起こる部分に実際の発音をハングルで記入させる ⑤1行ずつ意味と発音を確認した後に、全体での発音練習を数回行う	
	4. 個別音読指導 (20～25分) 前回の授業で学習した会話文を学習者に発音をさせその場で改善点を口頭で伝える	4. 音読練習と1回目の音読課題提出 (25分) ⑥ Edmodo 上で会話文の模範音声動画を聞き、文字を見ながら音声を聴き、個別音読練習を行う ⑦ 自分の音読を録音し、録音した自分の声を聴きながら、音読チェックリストの自己評価欄に記入する ⑧ 録音した音声とチェックリストを Edmodo に投稿する (1回目の提出) *授業内で終わらない場合は授業外で行う

授 業 外	<p>5. 授業外音読練習</p> <p>各自、授業外で音読練習（学習者に委ねる）を行う。</p> <p>1週間後の授業、個別音読指導時に、口頭でフィードバックを受け取る</p>	<p>5. 授業外音読練習と2回目の課題提出</p> <p>⑨ 1、2日後、フィードバックを受け取る</p> <p>⑩ 再度、音読練習を行う</p> <p>⑪ 自分の音読を録音し、録音した音声を聴きながら、音読チェックリストの自己評価欄に記入する</p> <p>⑫ 録音した音声とチェックリストを Edmodo に投稿する（2回目の提出）</p> <p>⑬ 最終評価（点数）を受け取る</p>
-------------	---	--

従来教育との違いは以下のようなものである。

まず、学習者に何をどのように学習すべきかを知らせるために、音読チェックリストを通し、明確な音読評価について提示した（表8、3、②参照）。

次に、従来教育で個別音読指導を行っていた時間を、1回目の音読提出を行う活動に変更し、個別の音読練習と自己評価を通した振り返りの時間とした（表8、4参照）。

最後に授業外フィードバックによる改善機会についてである。従来は、次の授業までの1週間、フィードバックを与えることができなかったが、改善版教育では、1、2日後のフィードバック提供が可能である。そのため、フィードバック後の2回目の課題提出を通し、学習者の発音改善につながると考えられる。（表8、5参照）。

改善版教育設計に伴い、Edmodoの導入と音声動画の作成を行った。Edmodoとは、2008年に生徒、教員、保護者をつなぐ学校専用SNS(Social Networking Service)<sup>3</sup>として誕生し、現在、世界中で約7,600万人<sup>4</sup>のユーザーが利用している。Edmodoを通し、教員は授業ごとに無料でグループを作成し、設定された暗証コードを持つ生徒のみがサイトにアクセスできる環境を提供できる。学習者にEdmodoアカウントを作成してもらい、教員が作成したグループに加入させることで、グループ内で課題を共有し、課題の提出やフィードバックの受け取りが可能になる。課題提出の際、他の学習者に提出物は公開されず、教員のみがすべての提出物を確認でき、個別でのフィードバック提供ができる。グループ内での小グループ作成により、学習者が提出した課題を小グループ内で共有することも可能で

<sup>3</sup> ReseMom : <http://resemom.jp/article/2014/10/28/21136.html> 参照

<sup>4</sup> Edmodo : <https://www.edmodo.com/about> 参照

あるが、本研究は、学習者間の活動を必要としないため、教員と学習者間のやり取りを円滑にするためにEdmodoを導入した。また、模範音声動画の作成にあたっては、指定教科書付属のCDから模範音声を抽出し、Windowsムービーメーカーで文字の表示と速度設定を行った。音声速度は、通常速度と、通常速度よりも遅い2分の1倍速を準備した。これは、学習者が個別練習の際、通常速度では分かりにくい発音を正確に理解するためのものである。文字の表示に関しては、文章だけではなく音韻変化にも考慮し、ハングルで実際の発音を表示した（図8参照）。Edmodoを通じた音読教育の流れは図7の通りである。



図7：Edmodoを使用した音読学習の流れ

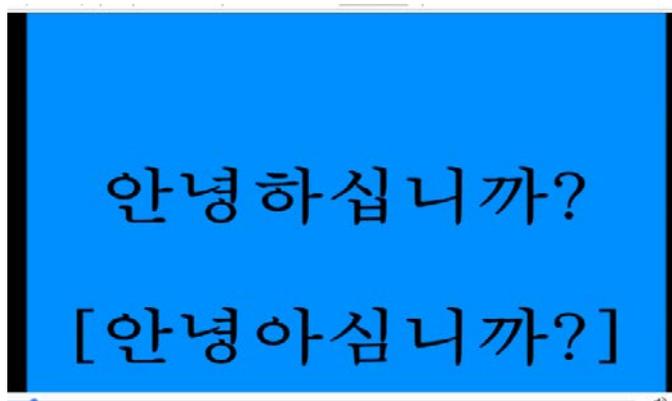


図8：音声動画の例

改善版教育における最初の活動は、図7の1の通り、教員が音読課題をEdmodo上に投稿し、学習者がそれを受け取ることである。音読課題として、図8で提示した模範音声動画と音読チェックリストを提供し、その際、音読学習と提出方法の明記、および提出期限<sup>5</sup>の設定も行った（図9参照）。



図9：Edmodo上で提供された音読課題

次に図7の2は、1回目の音読課題提出に関する活動である。模範音声動画での個別練習後、学習者に自分の音読を録音させ、録音は学習者が所持しているスマートフォンやタブレット端末、または、授業で使用するパソコンに内蔵された音声録音ソフトを利用した。音声録音後、学習者は録音した自分の音声を聴きながら、音読チェックリストの評価項目に沿って自己評価を行い、正しくできている場合には「○」、できていない場合には「×」を記入させた。更に、発音に関して質問がある場合には、コメント欄に記入するように伝

<sup>5</sup> 各課提出期限を設けているが、学習者のペースに合わせ、期限後でも提出を認め評価を行った。学期末の最終締め切りまでにすべての課題を提出し、評価を受けるように伝えた。

えた。自己評価の記入方法に関しては図 13 で提示した。課題提出として、録音した音声と自己評価を記入したチェックリストを Edmodo に投稿し、音声に関しては、パソコンからだけでなく、Edmodo の無料アプリを取得すれば、スマートフォンからの提出もできるようにした。パソコンでの提出状況を図 10 で示し、スマートフォンでの Edmodo アプリ画面と提出状況に関しては図 11 と 12 で提示した。音読チェックリストに関しては、パソコンからの提出のみであり、スマートフォンからの提出は不可能である。そのため、課題提出について、音声とチェックリストの両方をパソコンから提出する方法と、音声をスマートフォンから提出し、チェックリストをパソコンから提出する方法について事前に説明し、学習者の希望に合わせ提出方法を選択させた。



図 10 : Edmodo (パソコン) での課題提出

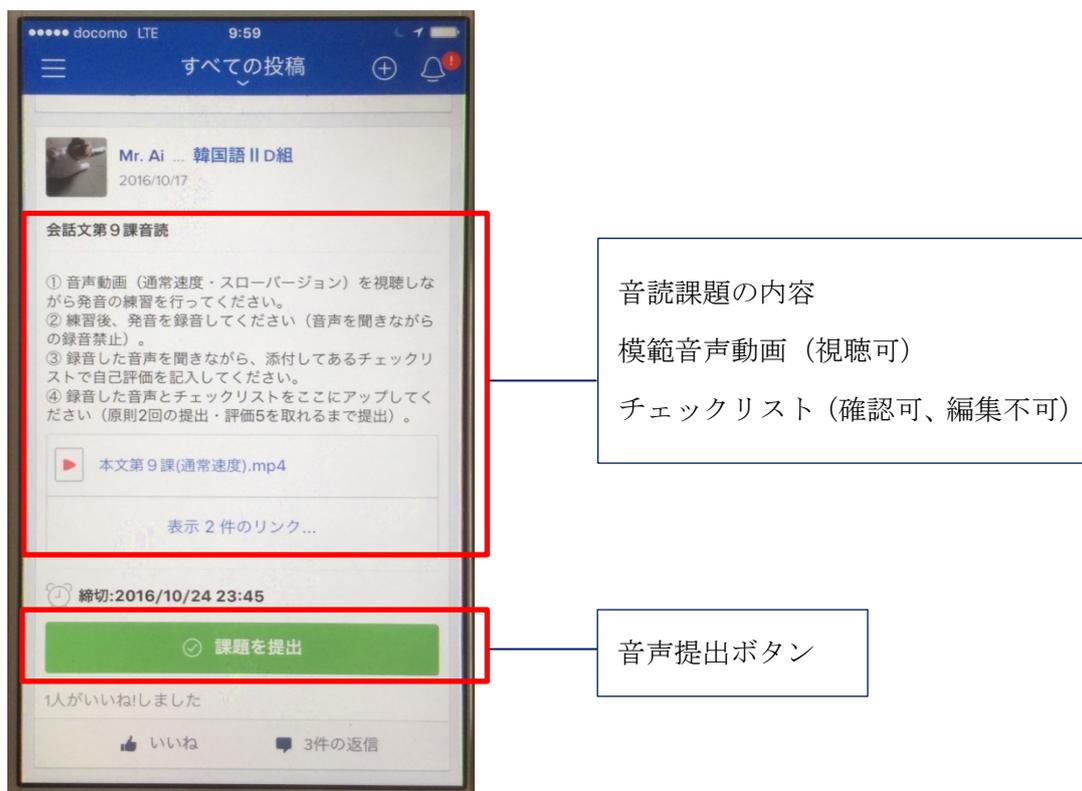


図 11 : Edmodo (スマートフォン無料アプリ) のトップ画面

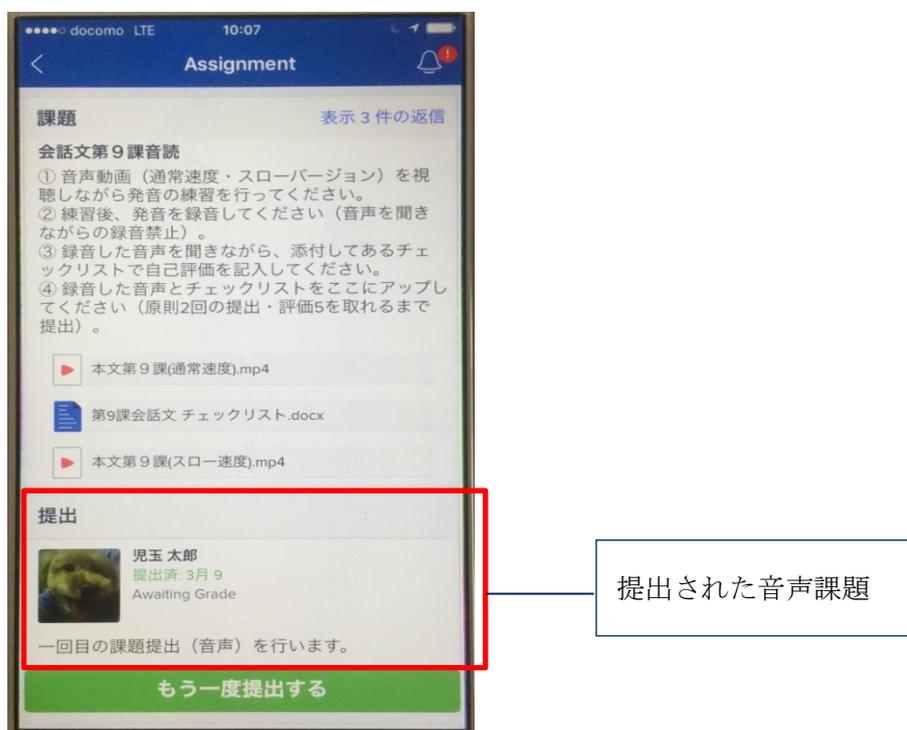


図 12 : Edmodo (スマートフォン無料アプリ) での音声提出

## 第7課会話文 チェックリスト

\* の部分は、発音変化の箇所

N O	行数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
			鼻	連	弱	鼻	連	弱
1	①	「오늘 바쁘니까?」を鼻音化で「오늘 바쁘니까?」と発音できている。	鼻	○	/	鼻		/
2	②	「동대문에서」を連音化で「동대문에서」と発音できている。	連	○	/	連		/
3	②	「옷을 삼니다」を連音化と鼻音化で「오늘 삼니다」と発音できている。	連	○	鼻	○	連	鼻
4	③	「어떻게 갑니까?」を激音化と鼻音化で「어떻게 갑니까?」と発音できている。	激	○	鼻	○	激	鼻
5	④	「남친하고」を弱音化で「남친하고」と発音できている。	弱	○	/	弱		/
6	④	「지하철로 갑니다」を鼻音化で「지하철로 갑니다」と発音できる。	鼻	○	/	鼻		/
7	⑥	「여자 친구를 만납니다」を鼻音化で「여자 친구를 만납니다」と発音できる。	鼻	×	/	鼻		/
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読んでいる。	はい	○	/	はい		/
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい	×	/	はい		/

### 第7課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
11~12	5	
9~10	4	
7~8	3	
4~6	2	
1~3	1	

学習者自己評価記入欄

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント
6番의 친구를의箇所が正しく発音できているかどうか分からなかった。 まだ鼻音化の発音に慣れない。	

図 13：自己評価記入方法（前期）

図 7 の 3 の活動は、教員フィードバックである。学習者が提出した 1 回目の課題を Edmodo 上で受け取り、音声と音読チェックリストに記載された自己評価の確認を行う。学習者の音声を聴きながら、音読チェックリストのフィードバック欄にチェックを入れ、フィードバックコメント欄には、どこをどのように間違えたのかを説明し、発音する際の舌や口の形を明確に示しながら正しい発音方法についての記載を行った。フィードバック

は、学習者が1回目の課題提出を行ってから原則1、2日後に提供した。フィードバックの方法に関しては、図14に提示した。

### 第7課会話文 チェックリスト

\*           の部分は、発音変化の箇所

N O	行数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>				フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>			
			鼻	連	激	弱	鼻	連	激	弱
1	①	「오늘 바쁘니까?」を鼻音化で「오늘 바쁘니까?」と発音できている。	鼻	○	/	/	鼻	○	/	/
2	②	「동대문에서」を連音化で「동대문에서」と発音できている。	連	○	/	/	連	○	/	/
3	②	「옷을 삼니다」を連音化と鼻音化で「오늘 삼니다」と発音できている。	連	○	鼻	○	連	○	鼻	○
4	③	「어떻게 갑니까?」を激音化と鼻音化で「어떡케 갑니까?」と発音できている。	激	○	鼻	○	激	○	鼻	○
5	④	「남친하고」を弱音化で「남친하고」と発音できている。	弱	○	/	/	弱	○	/	/
6	④	「지하철로 갑니다」を鼻音化で「지하철로 갑니다」と発音できる。	鼻	○	/	/	鼻	○	/	/
7	⑥	「여자 친구를 만납니다」を鼻音化で「여자 친구를 만납니다」と発音できる。	鼻	×	/	/	鼻	○	/	/
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい	○	/	/	はい	○	/	/
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい	×	/	/	はい	×	/	/

### 第7課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
11~12	5	○
9~10	4	
7~8	3	
4~6	2	
1~3	1	

教員フィードバック欄

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント
6番の친구를の箇所が正しく発音できているかどうか分からなかった。 まだ鼻音化の発音に慣れない。	鼻音化はきれいに発音できています。 「를」のパッチム「ㄹ」を「ru」と発音しているので、最後「L」で止めましょう。舌の先を上歯の裏側に押し当て「L」と止めるように発音してみてください。母音「u」は発音しないように!!

図14：教員フィードバックの方法（前期）

図7の4の活動は、2回目の音読課題提出に関してである。学習者は教員フィードバックの確認を通し、再度音読練習を行い、音読練習後に1回目の課題提出時と同様、録音した自分の音声と自己評価を記入した音読チェックリストをEdmodo上に投稿する。2回目の音読課題提出状況を図15に提示した。



図15：2回目の音読課題提出

図7の5の活動は、最終評価である。教員は、2回目に提出された課題に対しフィードバックと最終評価を与える。1回目のフィードバックと同じように、学習者の音声を確認しながらチェックリストのフィードバック欄にチェックとコメントを入れ、図16の通り、結果をEdmodoに表示した。



図 16 : Edmodo 上に表示した最終評価

図 7 に提示した 1 から 5 の音読課題は、原則、次の授業までの 1 週間以内で完了させ、最終評価を受けることを義務付けた。合格点を取得できない場合、前期では、3 回目以降の提出を任意で行うようにし、後期では、合格以外の点数を成績に反映させず、合格に達するまで課題提出を行うように伝えた。

### 3. 5. 反転授業との違い

本研究での改善版教育は、授業外での学習が必要不可欠な点において反転授業と共通するが、その他に関しては一致しないため、本研究と反転授業との区別を明確にする必要がある。反転授業について、重田（2014）では、授業と宿題の役割を「反転」させる授業形態とし、ジョナサン、他（2014）の中で内山、大浦（監修）は、「説明型の講義など基本

的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」と説明している。つまり、反転授業では、授業の前に予習を行う必要があり、それを前提に授業活動が行われる。しかし、本研究では、予習を必要とせず、授業後の復習としての学習に焦点を当てており、反転授業とは全く異なる体系と考える。予習を取り入れない理由として、学習者の学習レベルが関連している。本研究での研修対象者は入門、初級レベルであり、これらの学習者に対し、発音に関する注意が示されないまま予習として音読練習を行わせても、モデル音通りに発音できるとは限らず、間違った発音を習得する可能性が否定できない。土屋（2004）が述べるように、学習者に音韻システムについてのメタ言語的知識がない場合、モデル音を聴くだけの指示では不親切であり、英語の音声についての気付きを発達させるために、どんな音の特徴に注意すべきかが指示されなくてはならないと考える。このことから、本研究では、予習としての学習ではなく、授業後の定着促進に焦点を当て改善版教育の設計と実践を行った。

## 第4章 改善版教育実践と結果

### 4.1 改善版音読教育実践概要

改善版音読教育を前期と後期の2回に分けて実施した(図17参照)。前期は2016年5月23日から7月11日、後期は2016年10月17日から12月5日まで、各期8回ずつ、計16回の音読教育を行った。音読教育に入る前、前期第6回の授業で学習者に音読教育の目標と評価方法について説明し、その後、学習者にEdmodoアカウントを作成させ、Edmodo上で音声動画を開く方法と課題提出方法、およびフィードバックや評価を確認する方法についても実践を交え説明を行った。後期の韓国語Ⅱでは、音読チェックリストの評価基準と評価項目の変更を行い、第3回から10回まで音読教育を実施した。前期の学習範囲は、指定教科書の会話文1課から8課であり、後期は、第9課から20課である。しかし、学習が完了していない音韻変化を避けるため、9課、10課、11課、12課、13課、14課、15課、19課を後期での学習範囲とした。

前期「韓国語Ⅰ」	内容
第1回	授業ガイダンス
第2～6回	・文字、発音、音韻変化学習  ・音読教育に関する説明 学習目標、評価項目・基準の提示、Edmodoのアカウント作成、音声動画のダウンロード方法、課題提出方法、評価確認方法
第7～14回	音読教育実施(会話文第1課から8課)
第15回	前期口頭試験、アンケート
音読チェックリスト(音読評価項目、基準)の変更	
後期「韓国語Ⅱ」	内容
第1～2回	ガイダンス、前期の復習
第3～10回	音読教育実施(会話文第9、10、11、12、13、14、15、19課)
第11回	後期口頭試験、アンケート

図17：音読教育実践の流れ

#### 4.1.1 対象者

対象者は、「韓国語Ⅰ」と「韓国語Ⅱ」を受講する学部1年生40人である。大学に入学し初めて韓国語を学ぶ学習者であり、韓国語学習歴のある者は本研究の対象外である。韓

国語学習歴の有無については、事前アンケートを通し確認済みである。また、1 学年以外の学年、日本人以外の学習者に関しても本研究の対象から外れる。前期に「韓国語 I」を受講した者が、引き続き後期で「韓国語 II」を受講するため、前後期とも対象者に変動はない。

#### 4.1.2 学習目標

正しい韓国語の発音を身につけることを目的に、「文章を見ながら各課会話文を正しく読み、音読評価の合格ラインに達すること」を学習目標とした。合格ラインは、後期での音読チェックリスト修正に伴い、前期は評価 4 以上、後期は評価 5 である。

#### 4.1.3 検証方法と目的

検証方法とその目的については表 9 の通りである。音読教育終了後に口頭試験とアンケート調査を行い、前期は 2016 年 7 月 25 日と 26 日、後期は 2016 年 12 月 12 日と 13 日に実施した。

表 9：検証方法とその目的

NO	検証方法	検証目的
1	口頭試験（前期・後期）	・学習範囲内での発音定着を実現できたかを検証する
2	アンケート調査（前期・後期）	・学習者の視点から、音読練習と発音改善促進、および、学習範囲内での発音定着を実現できたかを検証する ・教育設計に問題はなかったか、設計上の妥当性と改善点を検証し、学習効果との関連性について明らかにする
3	音読課題提出状況と評価 獲得状況	・音読練習と発音改善促進につながったかを検証する
4	自己評価と教員フィード バックの差	・学習者の正しい発音の認識と、自分で発音改善を行う能力の向上について分析し、学習範囲内での発音定着が実現できたかを検証する

口頭試験は前期と後期で出題形式が異なる。前期では、口頭試験作成の際、学習を行った会話文から文章を選び、その際、単語を変えて問題を作成し、前期口頭試験が行われる

1週間前に問題を学習者に公開した状態で試験を実施した。一方、後期では、学習した会話文の中から文章を選び、単語を変えずにそのまま問題として出題し、問題の内容は試験直前まで公開しなかった。問題を非公開にしたため、前期よりも後期の試験問題の方が学習者の発音定着状況を正確に把握できると考え、後期の試験結果に焦点を当て検証を行った。

## 4.2 検証結果

### 4.2.1 口頭試験結果

口頭試験問題を学習者に読ませ、その音声を一人ずつ録音した。発音評価に関しては、韓国語教育を専門とする韓国語話者に依頼し、録音した音声をもとに点数をつけてもらった。前期と後期の口頭試験で出題した問題要素と配点は表 10 の通りである。

表 10：口頭試験問題要素と配点

問題の要素	音韻変化					全体		
	弱音化	鼻音化	連音化	濃音化	激音化	速度	文字	総合点
前期問題数	3	5	5	5	3	1	1	23
後期問題数	4	5	4	4	4	1	1	23

1問1点とし、問題数が23問であるため、総合点は23点満点である。音韻変化に関する配点は21点、全体の速度が1点、文字の発音に関する配点は1点である。音韻変化は、前期の音読教育以前に学習した弱音化、鼻音化、連音化、濃音化、激音化の5つを出題した。速度に関しては、途中で詰まることなく発音できているか、文字に関しては、1つも間違えずに正しく発音できているかをネイティブの判断に従い、口頭試験の評価を実施した。前後期の口頭試験の結果は表 11 と 12 に提示した。

表 11：前期口頭試験の結果

問題 NO	1	2	3	4	5	6	7	8
問題内容	弱音化	鼻音化	連音化	連音化	連音化	鼻音化	連音化	鼻音化
正答数	40	35	40	39	33	29	35	38
正答率	100%	88%	100%	98%	83%	73%	88%	95%
問題 NO	9	10	11	12	13	14	15	16
問題内容	濃音化	鼻音化	激音化	連音化	弱音化	濃音化	濃音化	激音化
正答数	40	38	32	36	36	32	40	39
正答率	100%	95%	80%	90%	90%	80%	100%	98%
問題 NO	17	18	19	20	21	22	23	総合
問題内容	濃音化	鼻音化	濃音化	激音化	弱音化	速度	文字	平均
正答数	35	33	39	34	39	35	20	20.4
正答率	88%	83%	98%	85%	98%	88%	50%	88.8%

表 12：後期口頭試験の結果

問題 NO	1	2	3	4	5	6	7	8
問題内容	弱音化	弱音化	濃音化	鼻音化	鼻音化	連音化	濃音化	濃音化
正答数	40	33	38	36	18	38	37	38
正答率	100%	83%	95%	90%	45%	95%	93%	95%
問題 NO	9	10	11	12	13	14	15	16
問題内容	激音化	鼻音化	濃音化	連音化	弱音化	連音化	激音化	激音化
正答数	36	35	38	37	30	37	38	37
正答率	90%	88%	95%	93%	75%	93%	95%	93%
問題 NO	17	18	19	20	21	22	23	総合
問題内容	連音化	鼻音化	激音化	鼻音化	弱音化	速度	文字	平均
正答数	39	30	36	37	37	34	33	20.3
正答率	98%	75%	90%	93%	93%	85%	83%	88.2%

後期では、問題を事前公開せず試験を実施したが、総合平均と速度に関して、前期と差

が見られなかった。図 18 から分かるように、音韻変化の弱音化と鼻音化で正答率が若干、低下したものの、文字の正確さに関しては前期と比べ 33%の上昇が見られた。

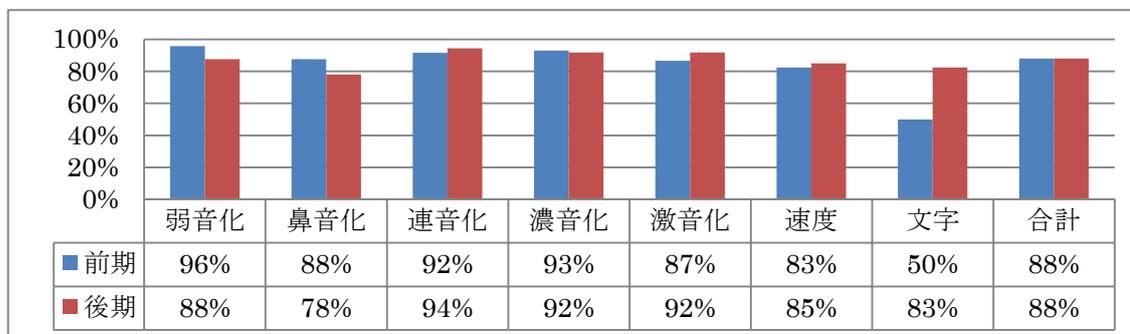


図 18：問題種別正答率

更に、図 19 で提示した総合点別人数から、正答率 9 割以上の 23 点、22 点、21 点を獲得した学習者は、前期は 22 人で全体の 55%であったのに対し、後期では 29 人に増え、全体の 72%まで上昇した。

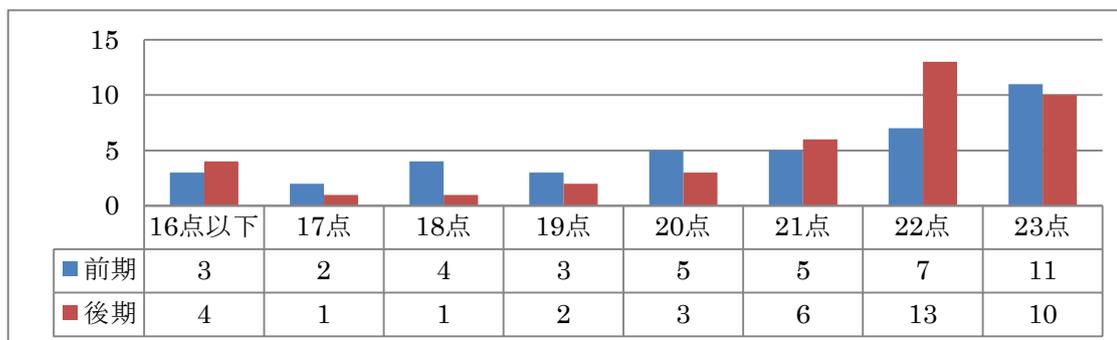


図 19：総合点獲得状況

#### 4.2.2 アンケート結果

アンケートは、口頭試験終了後に実施した。図 20 の結果から、自分のペースで練習を行えたと回答した学習者は前期で 88%、後期で 92%であり、図 21 の結果から、1 課ずつ学習を進められたと回答した学習者は前期で 80%、後期で 85%であった。図 22 の結果から、前後期ともに 92%の学習者が自分の学習状況を把握しながら学習を進めたと回答した。

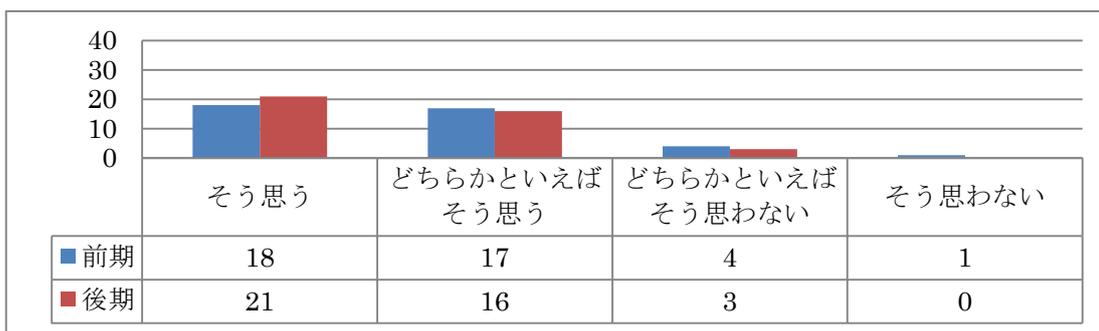


図 20：自分のやり方、ペースで音読学習を進められた

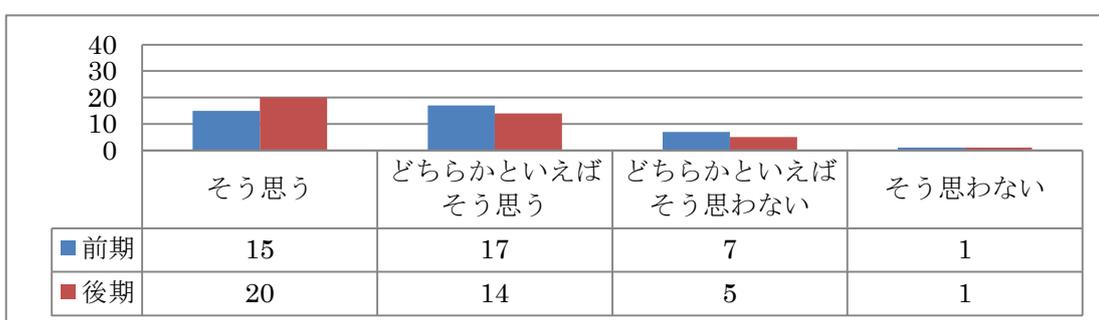


図 21：1課ずつクリアしながら確実に音読学習を進めることができた

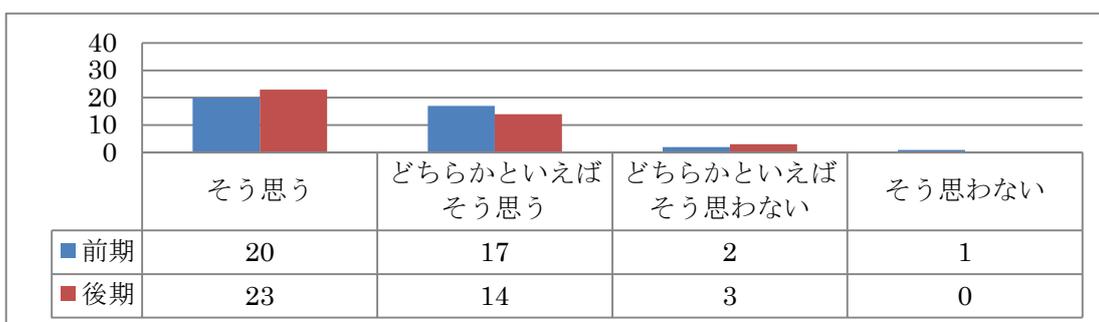


図 22：自分の音読状況や達成度を確認しながら学習を進められた

図 23 と 24 の結果から、音韻変化の習得に対し肯定的な回答を行った学習者は、前期で 90%、後期では 88%であり、文字の発音に関しては、90%の学習者が前期よりも正しく発音できるようになったと回答した。一方で、図 25 で提示した結果から、韓国語発音の自信に関して肯定的な回答を行った学習者は前期で 68%、後期で 75%であった。

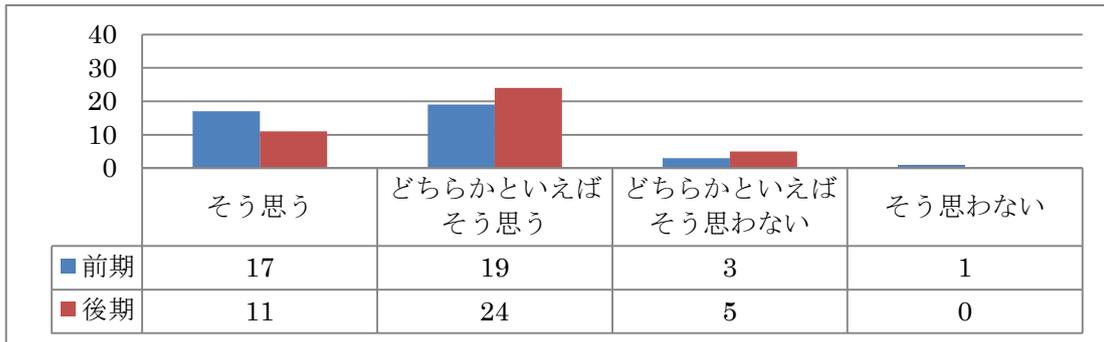


図 23：音読学習を通し、音韻変化の種類や変化過程を理解し、正しく発音できるようになった

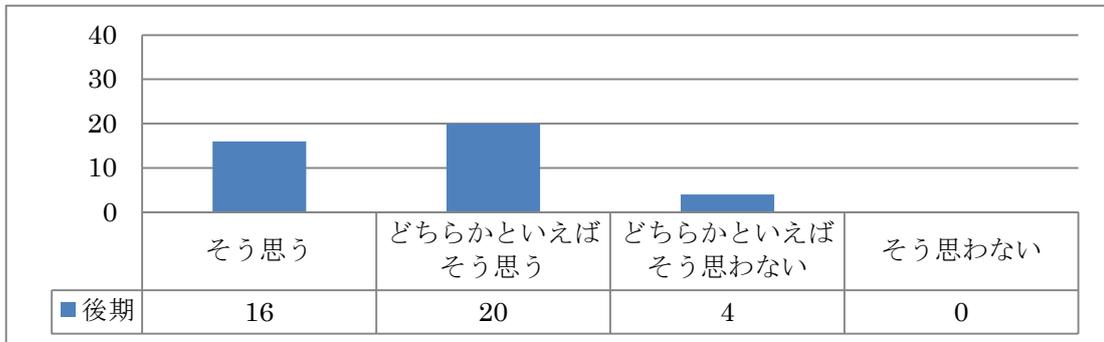


図 24：前期と比べ音読学習を通し、文字を正しく発音できるようになった

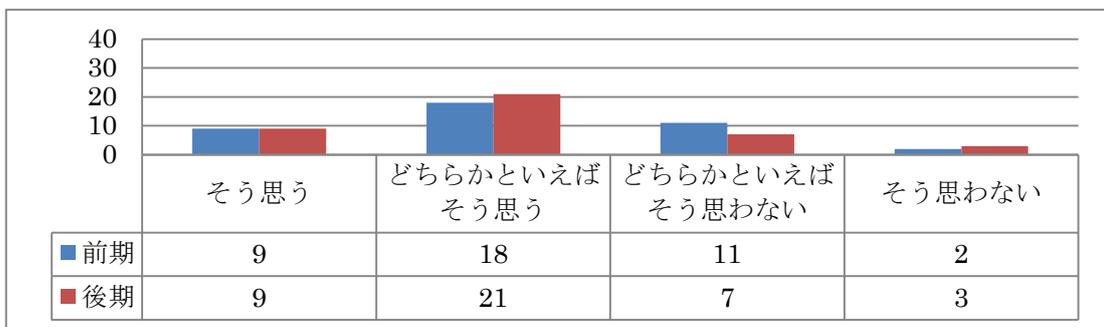


図 25：韓国語を発音することに自信を持てた

図 26 で提示した通り、音読評価の内容を理解しながら音読学習を行った学習者は前後期ともに 93%であった。更に、図 27 と 28 の結果から、自己評価による音韻変化の理解について前後期とも 9 割以上の学習者が肯定的な回答を行っており、文字の発音に関しては前期よりも定着を実感している学習者が 92%であった。

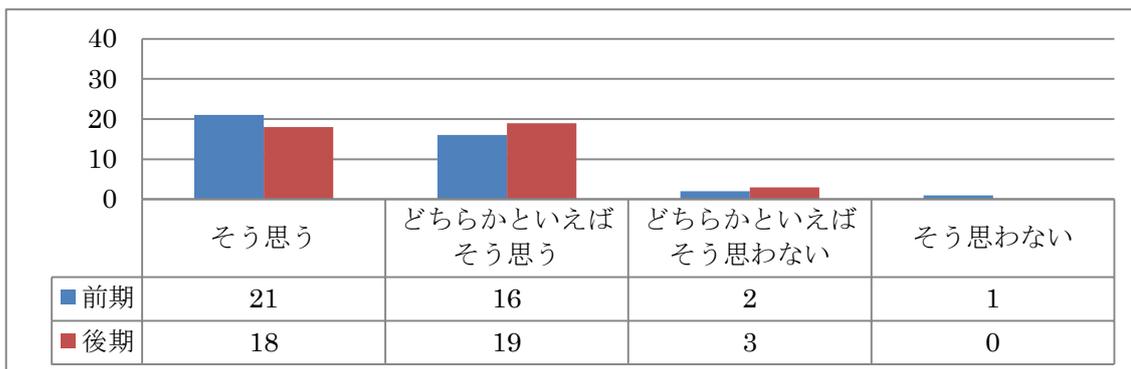


図 26：音読評価（音読チェックリスト）の項目を理解しながら学習を進められた

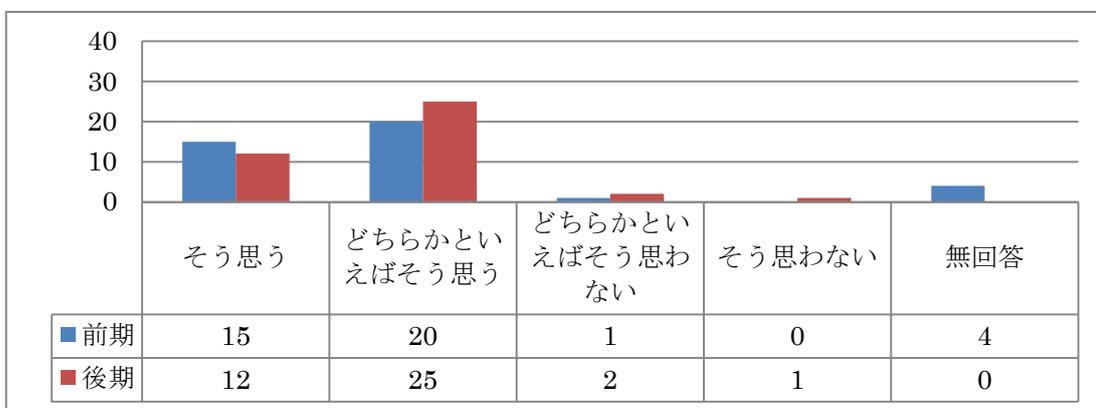


図 27：自己評価を通し、音韻変化の種類を理解し、正しく発音できるようになった

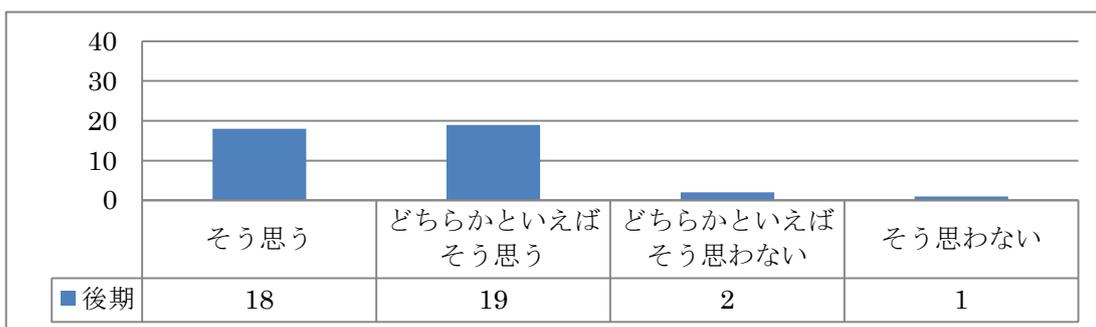


図 28：前期と比べ、自己評価を通し、正しく文字を発音できるようになった

図 29 から、前期の未回答を除くすべての学習者が、教員からのフィードバックによる正しい発音の定着に対し、肯定的な回答を行った。図 30 から、98%の学習者が自己評価とフィードバックの差を意識しながら練習を行っており、それにより 95%の学習者が発音定着を実感していることが図 31 を通して確認できる。一方で、図 32 から、教員フィード

バックがなくても自己評価だけで発音を習得できると回答した学習者は、全体の 62%に留まった。



図 29：担当教員からのフィードバックの内容は、正しい発音の定着に役立った

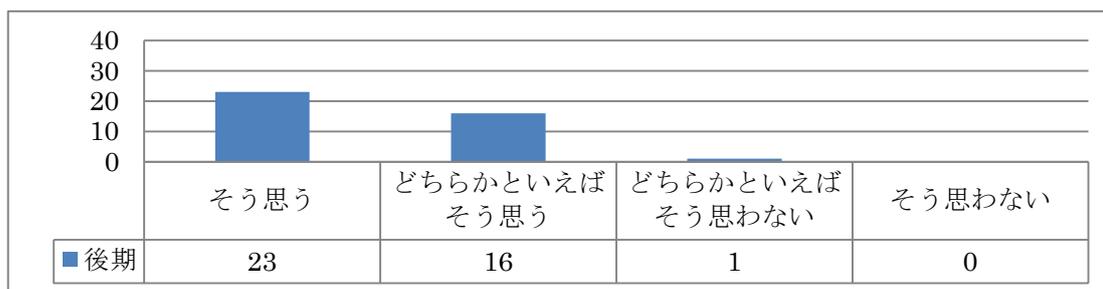


図 30：音読チェックリストによる自己評価とフィードバックの差を意識しながら音読練習を行った

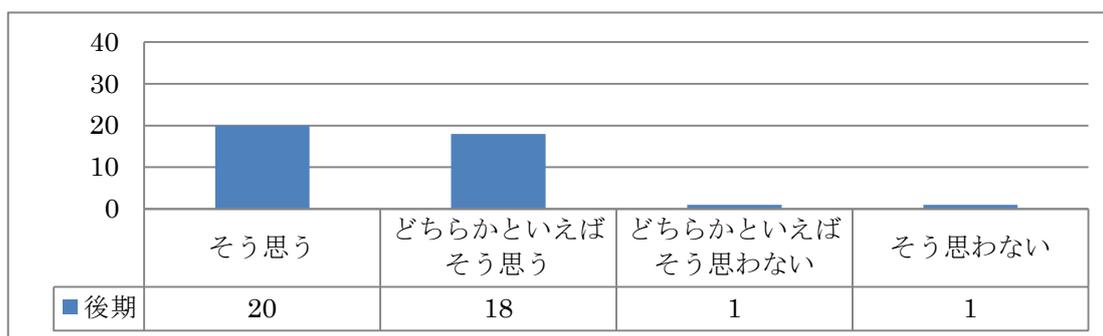


図 31：自己評価と教員フィードバックにより正しい発音が定着した

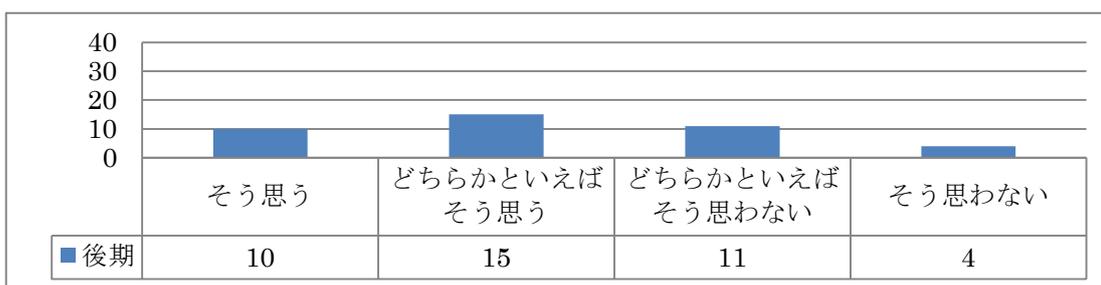


図 32：前期と比べ、自分の発音状況を正しく把握でき、教員からのフィードバックを受けなくても自分で正しい発音を習得できるようになった

図 33 の結果から、フィードバック後の改善機会について 88%の学習者が発音改善に役立ったと回答しており、図 34 の結果から、前後期ともに授業外の発音練習をよく行ったと回答した学習者は 88%であった。図 36 と 37 の結果から、音読時間と回数に関して、前後期の間で大きな差は見られなかった。週に 2、3 回の音読練習を行ったと回答した学習者は、前期で 63%、後期では 65%であり、1 回当たり 30 分以上 1 時間未満の学習を行った学習者は、前期で 45%、後期では 50%で、いずれも一番高い数値を示した。更に、図 35 から、音読学習を義務付けなくても自ら進んで学習を行ったと回答した学習者は全体の 25%に留まった。

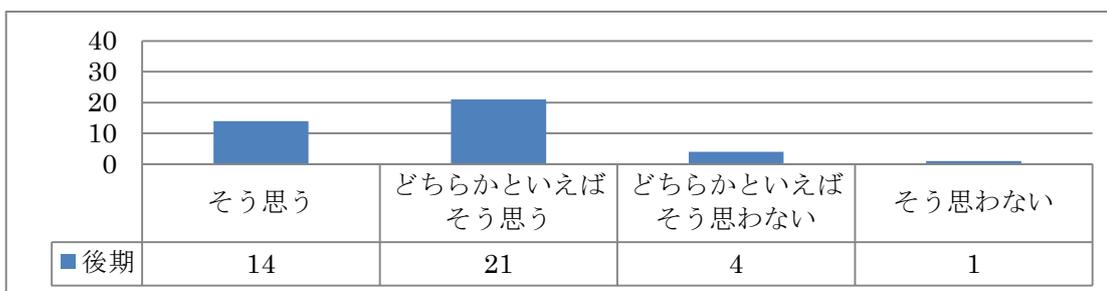


図 33：授業外の「改善の機会」は発音の定着に役立った

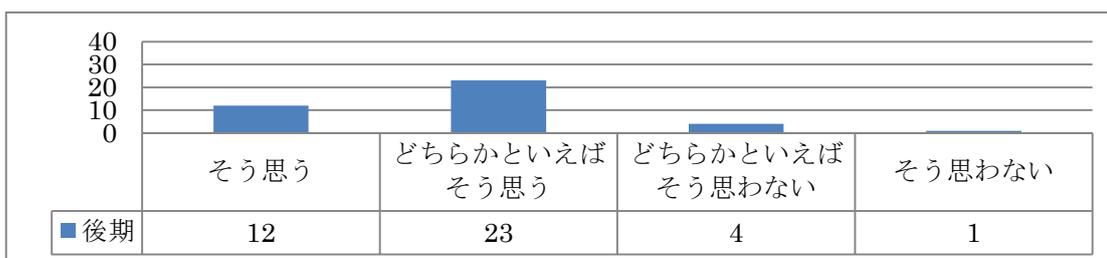


図 34：前期、後期とも授業外の発音練習をよく行った

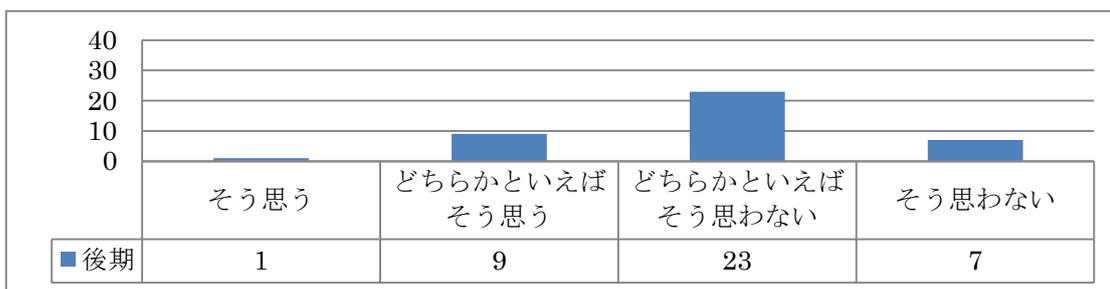


図 35：前期、後期で行った音読課題がなくても、自ら進んで練習を行ったと思う

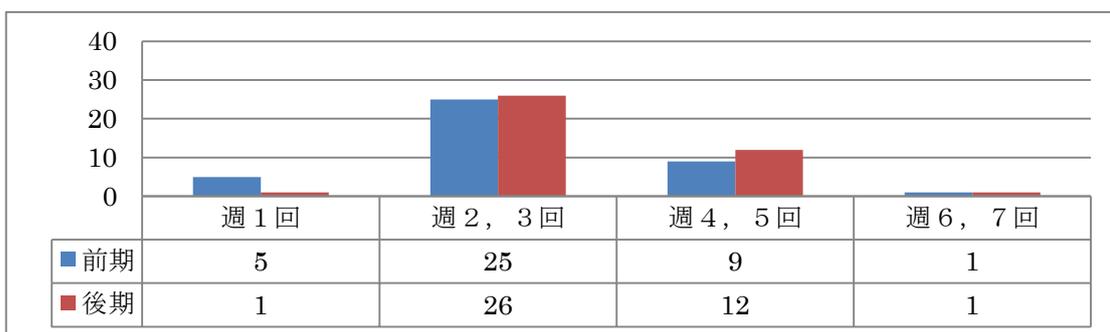


図 36：週に何回音読練習を行いましたか

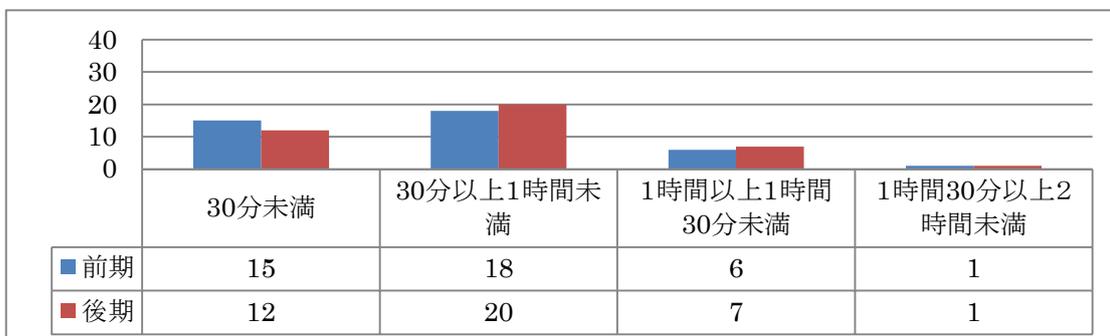


図 37：1回あたりの音読練習時間はどれくらいですか

図 38 から 42 では、改善版音読教育で使用した Edmodo と音声動画に関する設問であり、これらの使用方法に問題はなかったかについて調査を行った。

図 38 と 39 は、Edmodo での音声課題提出についてである。大半の学習者が携帯からの音声提出を行っており、携帯とパソコンを通し、ほぼ問題なく音声の提出を行っていたことが確認できる。また、図 40 は、音読チェックリストの提出に関する設問である。音声とは違い、チェックリストはパソコンのみの提出であり、無回答者を除き、ほとんどの学習者が問題なく提出を行っていたことが確認できる。

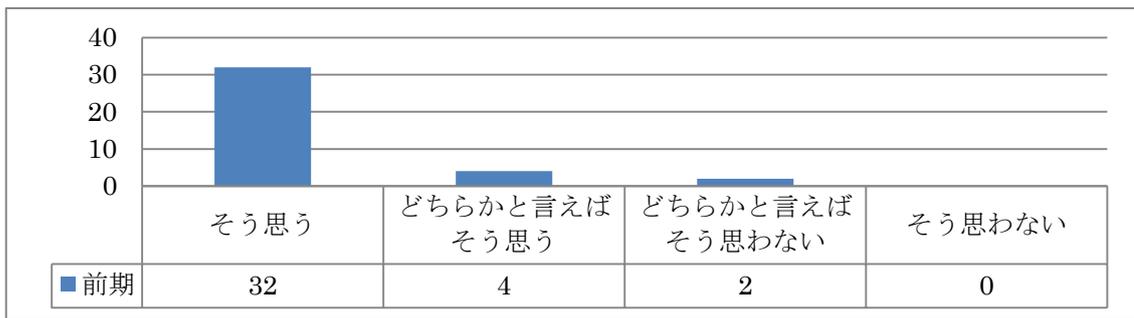


図 38：(携帯から音声を提出していた人のみ) 音声を問題なく提出できた

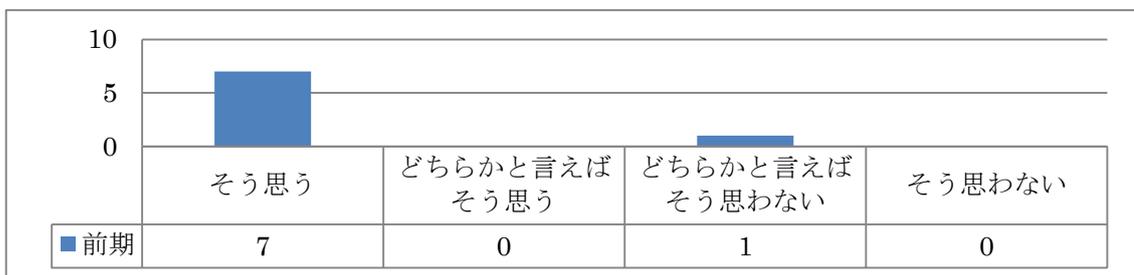


図 39：(パソコンから音声を提出していた人のみ) 音声を問題なく提出できた

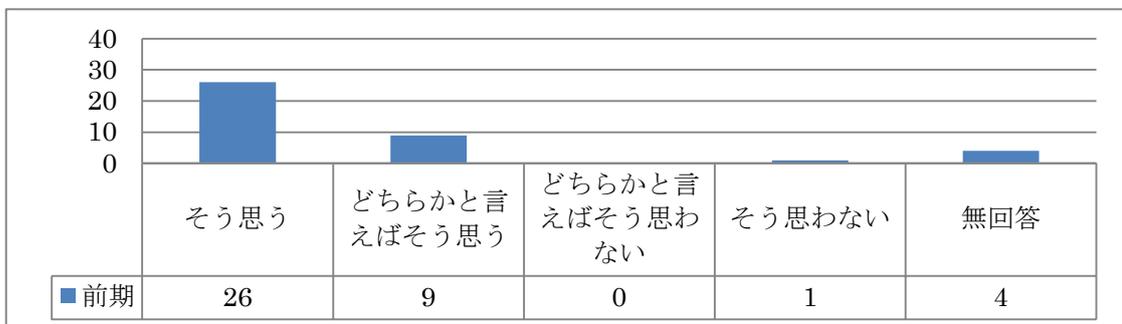


図 40：音読チェックリストの記入、提出を問題なく行っていた

一方で、音声とチェックリストの提出に関して、問題を訴える学習者も存在する。教育実践中に、提出できない等の理由で、学習者が直接尋ねて来るケースもあった。「どちらかと言えばそう思う」と回答した学習者の中には、課題提出時に問題を経験した学習者が含まれ、個別に対応を行ったことで提出の問題を解決できたと考える。学習者から得た課題提出の問題について表 13 でまとめた。

表 13 : 「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」の理由

設問	理由
図 36 : (携帯から音声を出していた人のみ) 音声を問題なく提出できた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出できなかった (1件)</li> <li>・一時期、Edmodo が開けない or 開けてもすぐおちるなどの不具合が起きていた (1件)</li> </ul>
図 37 : (パソコンから音声を提出していた人のみ) 音声を問題なく提出できた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯で録音して、パソコンにメールで音声を送ったとき、なかなか保存できないことが多かった (1件)</li> </ul>
図 38 : 音読チェックリストの記入、提出を問題なく行っていた	提出方法が複雑だった (1件)

表 13 から、課題提出に関する問題として、学習者が提出方法を十分に理解していない場合と、携帯版 Edmodo アプリの不具合から生じるものが挙げられる。アプリの不具合に対しては、パソコンから提出を行う等、別の方法での提出を指示した。更に、「その他の Edmodo に関する改善点」では、「提出方法を少し簡単にしてほしい」が 1 件、「携帯でもチェックリストが提出できるといい」が 1 件報告された。

図 41 と 42 から、無回答者を除く 9 割以上の学習者が、音声動画での個別音読練習に対し、肯定的な回答を行った一方で、「音声動画での個別練習に関する改善点」については、「絵や状況をもっと分かりやすくした方が入ってきそう」という意見が 1 件報告された。

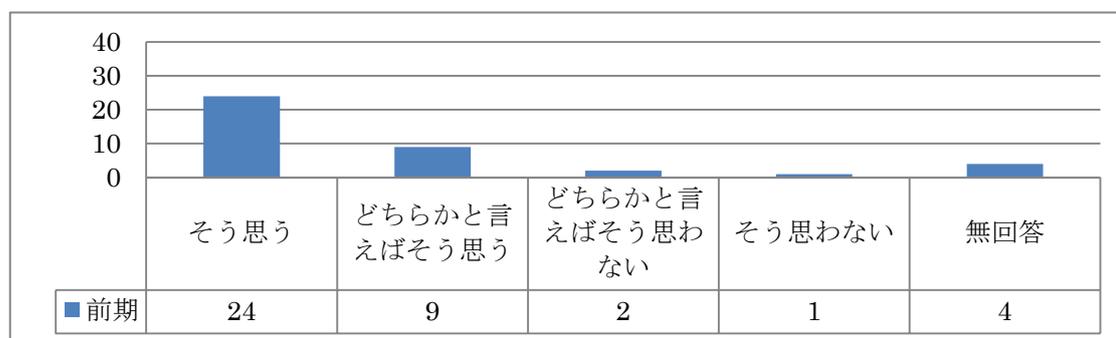


図 41 : スローバージョンの音声は、発音を正しく理解する上で必要である

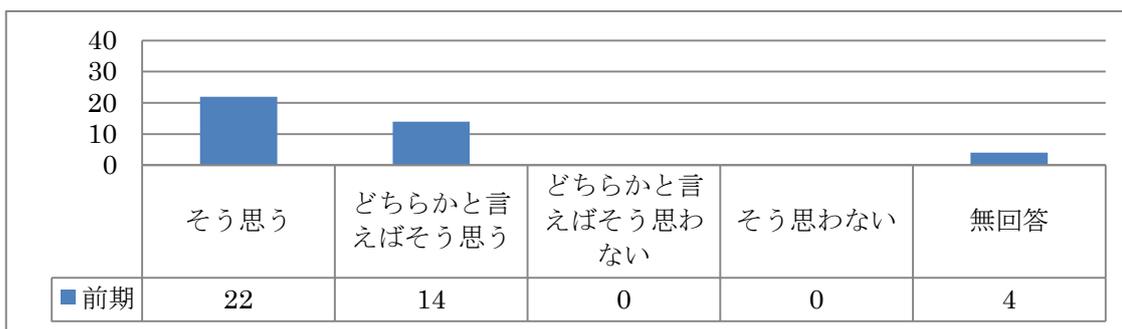


図 42：音声動画での個別練習を通し、正しい発音を身につけられた

#### 4.2.3 音読課題提出と到達状況

提出された音読チェックリストをもとに、学習者の音読提出状況と獲得評価状況を分析した。図 43 と 44 から、前後期ともに、ほとんどの課で課題提出率が9割台であったことが確認できる。各課最終合格者と不合格者、再提出者状況については図 45 と 46 で提示した。再提出者とは、2回目の提出で合格に到達できず、3回目以降の提出を合格するまで行った学習者数である。再提出を行った学習者は前期では確認されなかったが、音読評価の変更を行った後期では増え、それに伴い最終合格者の数も増加した。

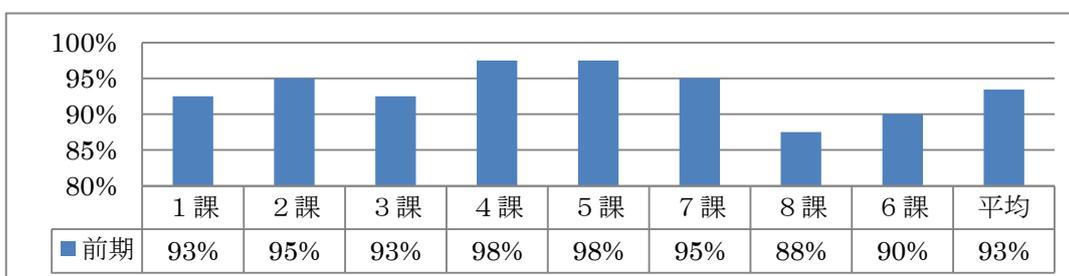


図 43：前期各課音読課題提出状況

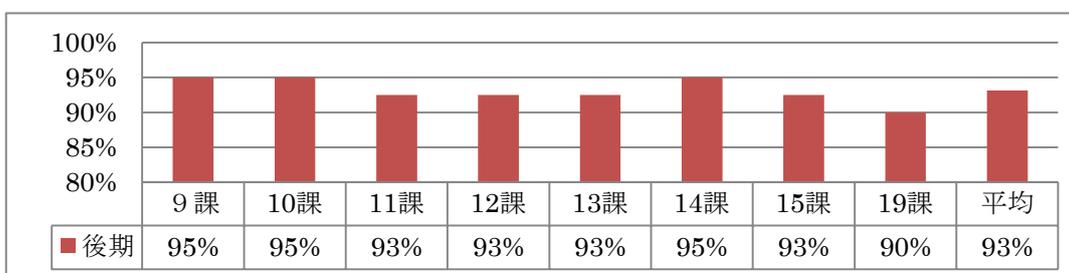


図 44：後期各課音読課題提出状況

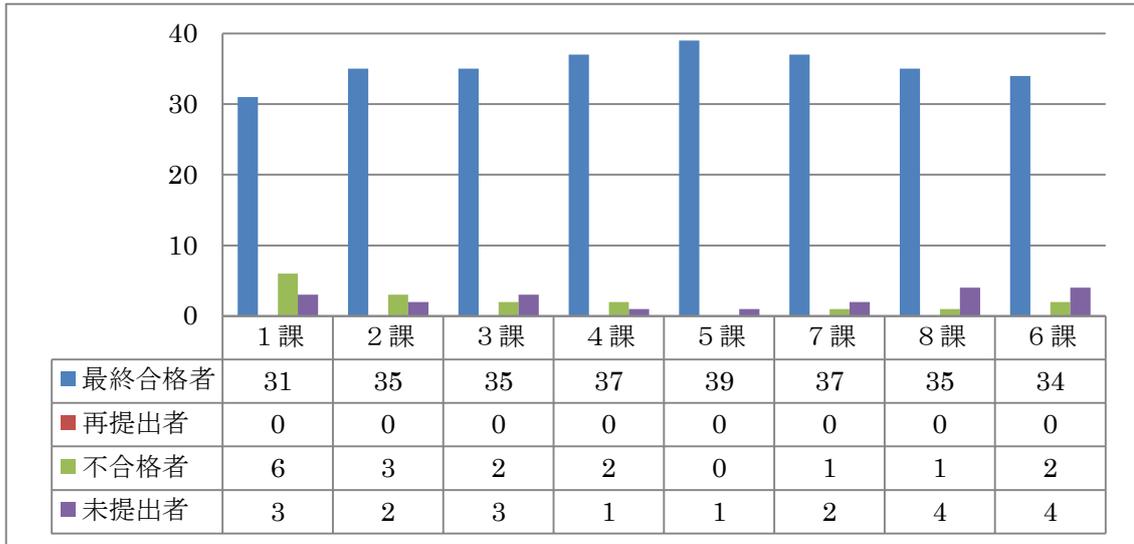


図 45：前期合格者、再提出者、不合格者状況

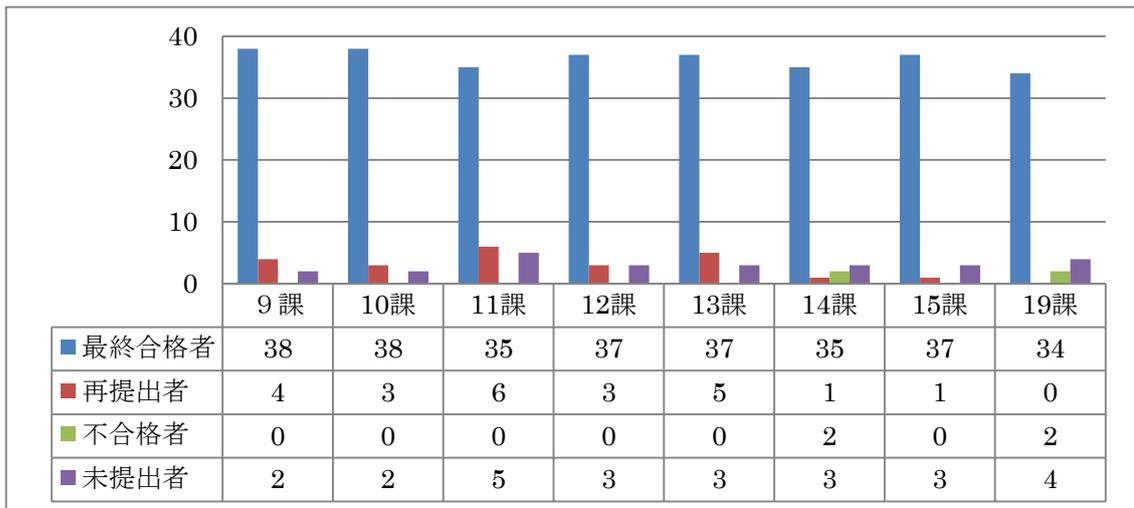


図 46：後期合格者、再提出者、不合格者状況

図 47 と 48 で、学習者が各課で最終的に獲得した音読評価を提示した。前期では、評価 5 に到達した学習者は最少 24 人、最大で 34 人であったが、評価項目と基準の変更を行った後期では、評価 5 を獲得した学習者は最少 34 人、最大で 38 人であった。この結果から、前期よりも後期で正答率 9 割を超える学習者が増えていることが確認できる。

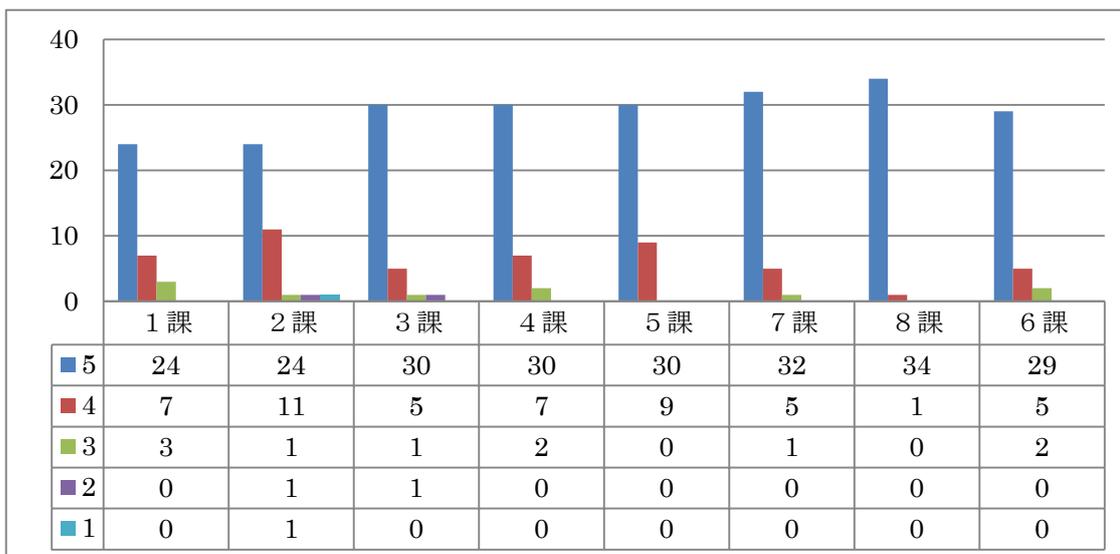


図 47：前期音読評価獲得状況

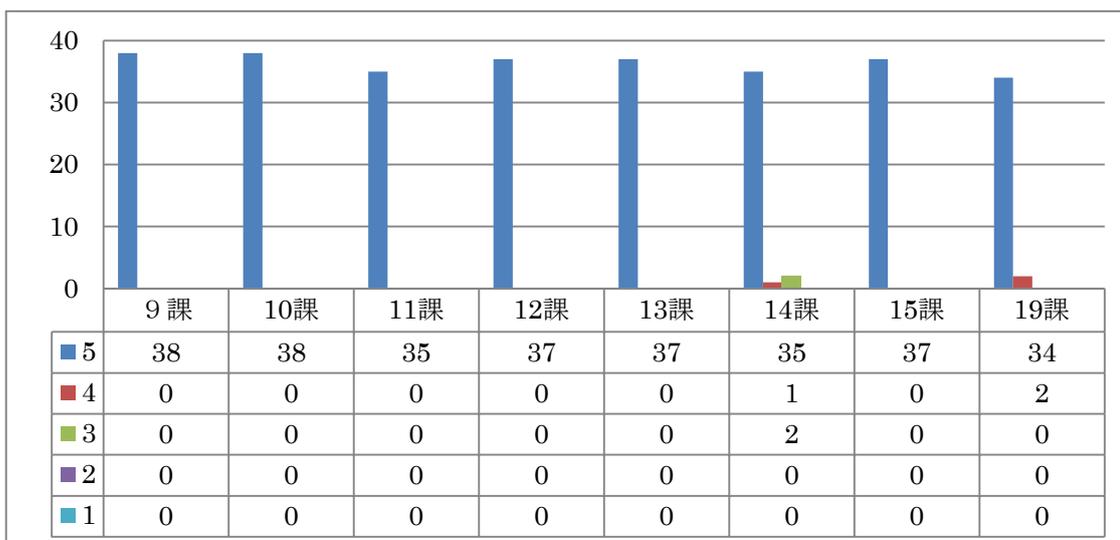


図 48：後期音読評価獲得状況

評価項目数は各課で異なるため(表 14 参照)、学習者が獲得した点数を百分率に換算し、図 49 と 50 に提示した。前後期ともに、ほとんどの課で1回目の獲得点数が8割を超え、2回目はほぼ9割台である。

表 14：各課音読評価項目数

前期	1 課	2 課	3 課	4 課	5 課	7 課	8 課	6 課
評価項目数	13	14	17	22	13	11	12	9
後期	9 課	10 課	11 課	12 課	13 課	14 課	15 課	19 課
評価項目数	14	16	15	17	19	22	15	17

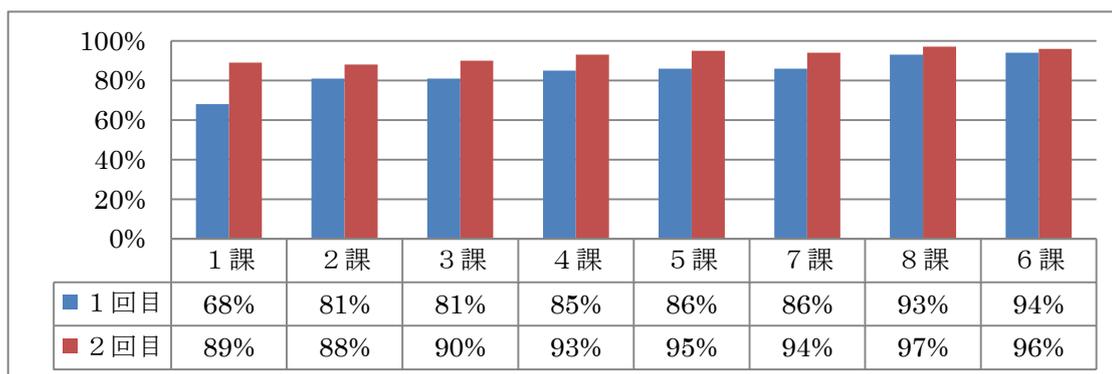


図 49：前期音読評価獲得状況（百分率）

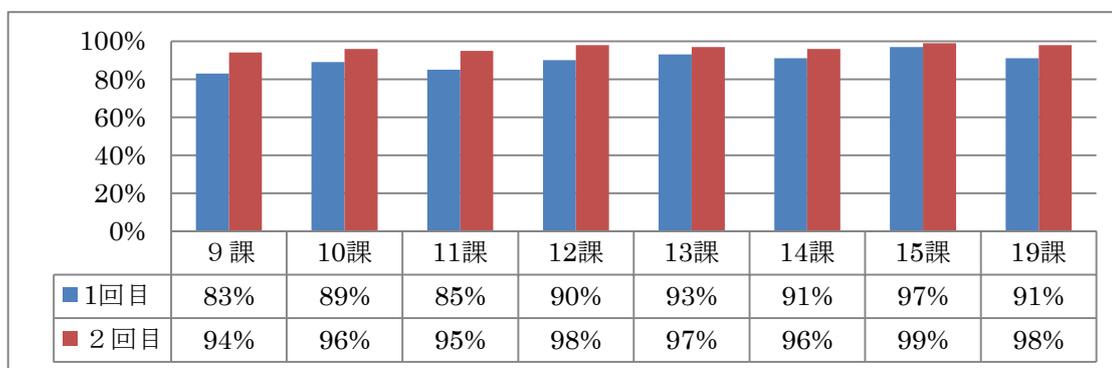


図 50：後期音読評価獲得状況（百分率）

#### 4.2.4 自己評価と教員フィードバックの差

各課の音読課題として提出された音読チェックリストから、学習者自己評価と教員フィードバックの差に注目し、これらを過小評価と過大評価に分けて分析を行った。過小評価とは、学習者が自己評価の際、正しく発音を行っているにもかかわらず、できていないと判断することであり、過大評価は、正しい発音できていないにもかかわらず、できていると判断することを指す。

自己評価とフィードバックの差から1人当たりの過小評価と過大評価の数を図 51 から 54 に提示した。図 51 と 52 は、前後期1回目提出時の自己評価とフィードバックの差である。過大評価より過小評価に関する誤差が高く、特に前期は過小評価の数値が最大 6.8 であった。しかし、後期では、過小評価の誤差が最大 3、最少 1.7 まで縮まり、それに伴い誤差の合計が前期よりも低下した。

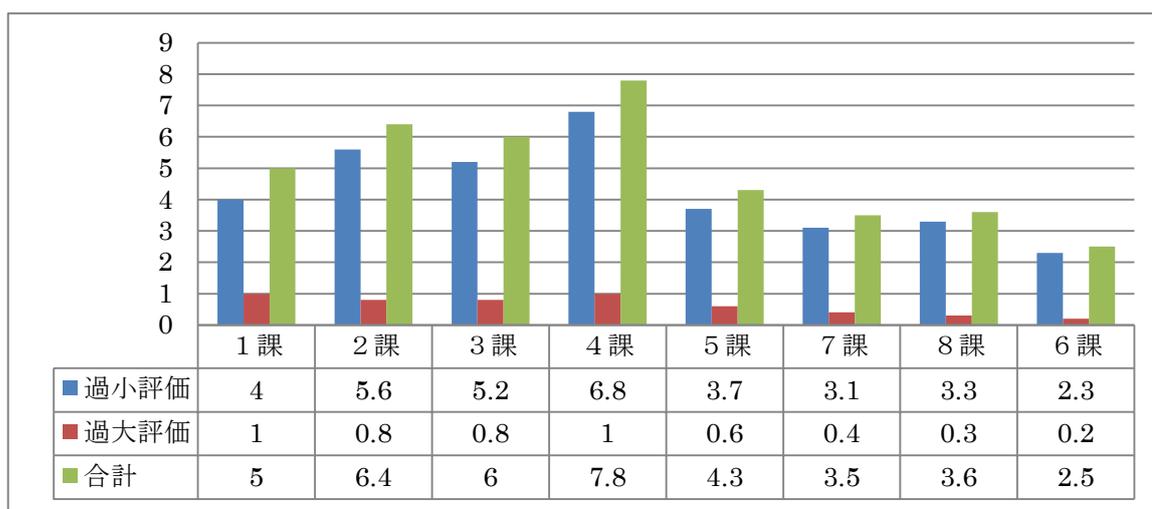


図 51：前期音読課題提出1回目自己評価と教員フィードバックの差（全体平均）

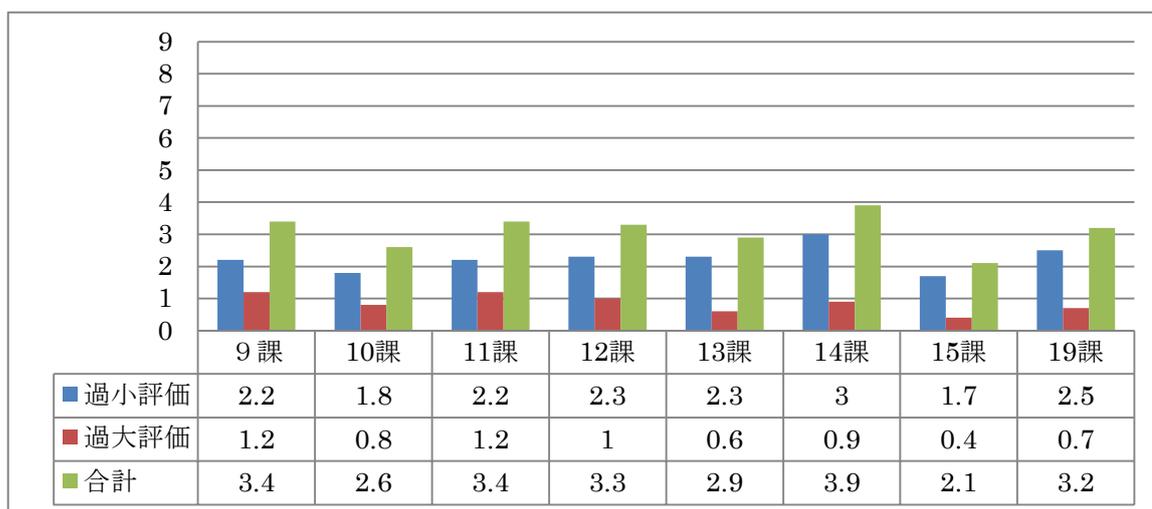


図 52：後期音読課題提出1回目自己評価と教員フィードバックの差（全体平均）

図 51 と 52 は、前後期2回目提出時の自己評価とフィードバックの差であり、いずれも教員フィードバック後の提出である。前後期ともに1回目提出時よりも2回目提出時で誤

差の縮まりが確認できる。特に後期では、誤差が前期と比べ縮まり、過小評価に関して、前期の第1課に4.2だった誤差が、後期の第15課では0.6、第19課では0.9まで低下した。

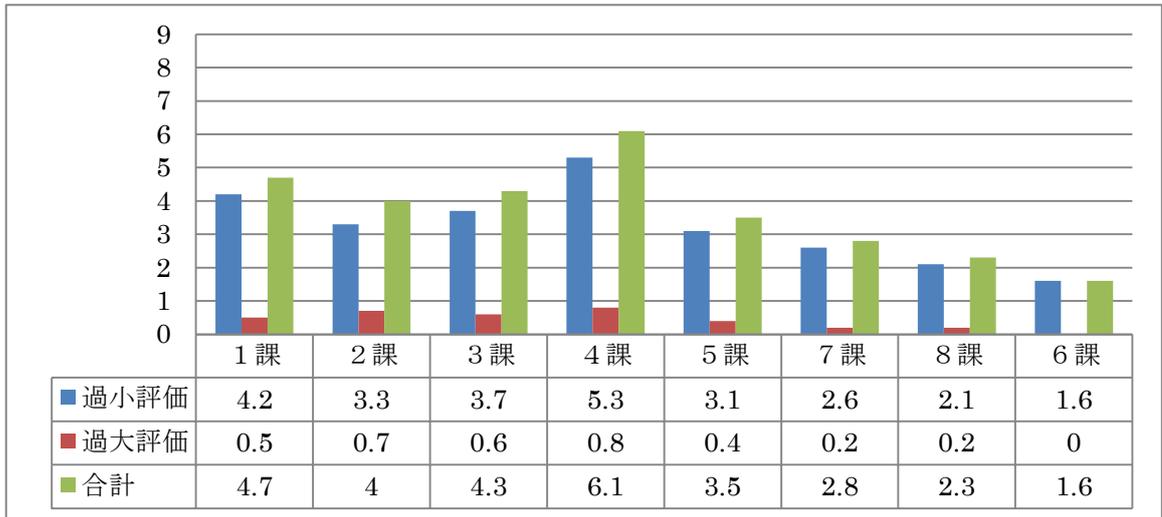


図 53：前期音読課題提出2回目自己評価と教員フィードバックの差（全体平均）

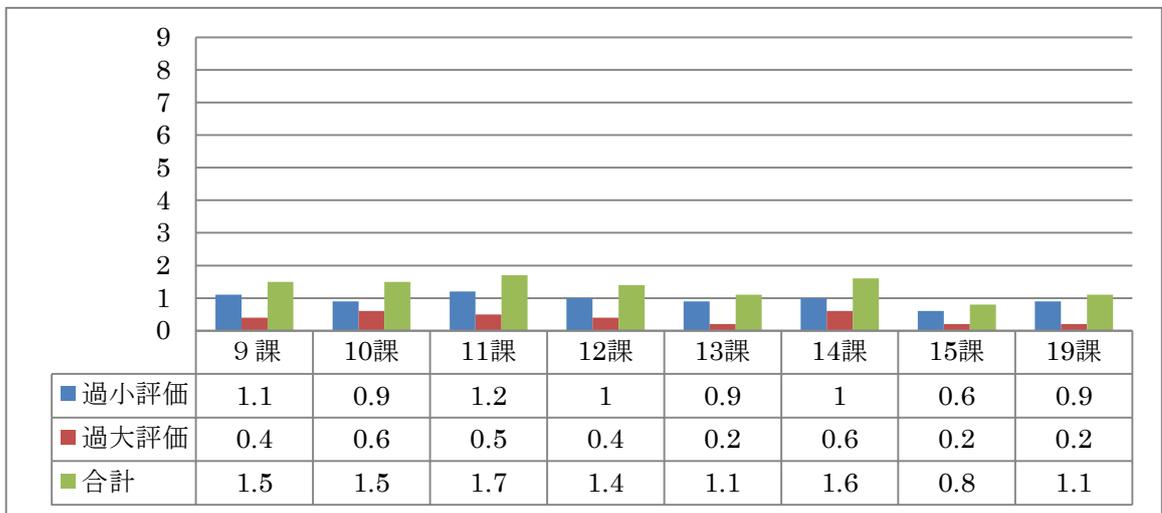


図 54：後期音読課題提出2回目自己評価と教員フィードバックの差（全体平均）

## 第5章 考察

検証結果をもとに、指導方略である音読評価基準の明確化、および自己評価と教員フィードバックによる改善機会の提供を学習効果と設計の妥当性に焦点を当て考察を行い、音読練習と発音改善の促進、および発音定着の成果についてまとめた。

### 5.1 音読評価基準の明確化による学習効果

音読評価基準の明確化による学習効果について、表15の通りである。

表15：音読評価基準の明確化による学習効果

指導方略	音読評価基準の明確化	
検証方法	アンケート	結果
検証内容	図26：音読評価（音読チェックリスト）の項目を理解しながら学習を進められた	肯定的な回答：前後期 93%
検証方法	音読課題	結果
検証内容	図49：前期音読評価獲得状況（百分率）	1回目提出時の取得評価平均：8割以上（第1課を除く）
	図50：後期音読評価獲得状況（百分率）	
	図45：前期合格者、再提出者、不合格者状況	再提出者数：0人、 不合格者数：最大6人
	図46：後期合格者、再提出者、不合格者状況	再提出者数：最大6人 不合格者数：最大2人（14課と19課のみ）、その他の課では0人
	図47：前期音読評価獲得状況	評価5獲得者数：最大34人、最小24人
図48：後期音読評価獲得状況	評価5獲得者数：最大38人、最小34人	

↓  
音読練習促進

図 26 から、前後期ともに 9 割の学習者がチェックリストの項目を十分に理解した上で学習を行っており、また、図 49 から、ほとんどの課において、教員フィードバックが行われていない 1 回目の提出時で全体の取得評価が 8 割以上であることが確認できる。このことから学習者が、チェックリストをもとに音読練習を確実に行ったと考えられる。また、図 45 と 46 の結果から、前期では不合格にもかかわらず、再提出を行った学習者が確認できなかったのに対し、音読評価基準をより明確に変更した後期では、再提出を行う学習者が増え、不合格者がほとんどの課で確認されなくなった。更に、図 47 と 48 では、評価 5 獲得者数が前期よりも後期で増加しているのが確認できる。これらは評価基準を音韻変化だけではなく、1 文ずつの文字に焦点を当てたこと、そして、合格ラインを評価 4（正答率 7 割）以上から評価 5（正答率 9 割以上）に変更したことで、より確実な音読練習が行われた結果である。

以上のことから、音読評価基準の明確化により、学習者の音読練習促進につながったと考えられる。

## 5. 2 自己評価と教員フィードバックによる学習効果

自己評価と教員フィードバックによる学習効果について、表 16 の通りである。

表 16：自己評価とフィードバックによる学習効果

指導方略	自己評価とフィードバック	
検証方法	アンケート	結果
検証内容	図 27：自己評価を通し、音韻変化の種類を理解し、正しく発音できるようになった	肯定的な回答：前期 88%割、後期：93%
	図 28：前期と比べ、自己評価を通し、正しく文字を発音できるようになった	肯定的な回答：後期 93%
検証内容	図 29：担当教員からのフィードバックの内容は、正しい発音を定着するのに役立った	肯定的な回答：前後期 100%（無回答 4 人を除く）
検証内容	図 30：音読チェックリストによる自己評価とフィードバックの差を意識しながら音読練習を行った	肯定的な回答：後期 98%

	図 31:自己評価と教員フィードバックにより正しい発音が定着した	肯定的な回答：後期 95%
	図 32:前期と比べ、自分の発音状況を正しく把握でき、教員からのフィードバックを受けなくても自分で正しい発音を習得できるようになった	肯定的な回答：後期 63%
検証方法	音読課題	結果
検証内容	図 49：前期音読評価獲得状況（百分率）	各課、1回目より2回目の提出時に取得点数が上昇
	図 50：後期音読評価獲得状況（百分率）	

### 発音改善の促進

自己評価の効果について、図 27 と 28 の結果から、学習者が自己評価を通し、音韻変化と文字の発音の定着を実感していることが確認できる。

教員フィードバックに関する効果については、図 29 から確認できる。すべての学習者が発音定着に教員フィードバックが役立ったと回答しており、この結果から教員フィードバックを通し、どこをどのように改善すべきかが明確になったことで、発音改善を実感できたのではと考える。

自己評価と教員フィードバックを合わせた効果について、アンケートと音読課題の結果から確認できる。図 30 と 31 の結果から、学習者の多くが自己評価と教員フィードバックの差を確認しながら学習を行い、その結果が発音改善への実感につながったのではと考える。また、図 49 と 50 を通し、各課 1 回目より 2 回目提出時に全体の取得評価が伸びていることから、発音改善が行われたことが確認でき、改善すべき個所が明確になったことで発音改善につながったと考えられる。

以上のことから、自己評価と教員フィードバックは、学習者の発音改善促進に効果的であったといえるが、図 32 の結果から、教員フィードバックなしに自己評価だけで発音定着ができると答えた学習者は 6 割にとどまり、他の設問と比べても低い数値を示した。このことから、発音練習の促進と発音定着のためには、自己評価と教員フィードバックの両方が必要だと考える学習者が少なくないことが確認できる。

### 5.3 音読練習と発音改善の促進

指導方略により音読練習の促進と発音改善が行われたと考える根拠として、アンケート結果と音読課題の提出状況から確認でき、表 17 にまとめたとおりである。

表 17：音読練習と発音改善の促進

検証方法	アンケート	結果
検証内容	図 20：自分のやり方、ペースで音読学習を進められた	肯定的な回答：前期 88%、後期 92%
	図 21：1 課ずつクリアしながら確実に音読学習を進めることができた	肯定的な回答：前期 80%、後期 85%
	図 22：自分の音読状況や達成度を確認しながら学習を進めることができた	肯定的な回答：前期 92%、後期 92%
	図 33：授業外の「改善の機会」は発音の定着に役立った	肯定的な回答：後期 88%
	図 34：前期、後期とも授業外の発音練習をよく行った	肯定的な回答：後期 90%
	図 35：前期、後期で行った音読学習がなくても、自ら進んで練習を行ったと思う	肯定的な回答：25%
	図 36：週に何回音読練習を行いましたか	週 2, 3 回：前期 63%、後期 65% 週 4, 5 回：前期 23%、後期 30%
	図 37：1 回あたりの音読練習時間はどれくらいですか	30 分未満：前期 38%、後期 30% 30 分以上 1 時間未満：前期 45%、後期 50%
検証方法	音読課題	結果
検証内容	図 43：前期各課音読課題提出状況	前期：平均提出率 93%（8 課のみ 88%） 後期：平均提出率 93%
	図 44：後期各課音読課題提出状況	

図 20、21、22 の結果、8 割から 9 割の学習者が音読課題を確実に進められたことに対

し肯定的であり、図 33 と 34 からは、9 割の学習者が授業外の発音練習を改善の機会と認識し、授業外での発音練習を行っていたことが確認できる。図 43 と 44 から、ほとんどの課において提出率が 9 割以上であり、今回実施した音読学習がなくても自ら進んで練習を行ったと回答した学習者が 2 割にとどまった（図 35 参照）ことを踏まえると、音読課題を通し、練習が促進されたと考えられる。音読練習の頻度（図 36 と 37 参照）に関して、週 2，3 回と回答した学習者が一番多く、週 4，5 回の回答を合わせると、前期は 8 割、後期は 9 割に上り、多くの学習者が音読課題提出を通し、フィードバック前後の練習と改善をそれぞれ 1 回以上行っていたことが確認できる。一方で、1 回あたりの練習時間は、30 分以上 1 時間未満の回答が最も多く、30 分未満を含めると 8 割の学習者がこれに該当する。1 回あたりの練習時間はそれほど長くはなく、短い時間で音読練習と発音改善が行われており、これは、音読評価基準の明確化により学習内容が明確になったこと、そして、自己評価と教員フィードバックにより改善部分が明確になったことで、音読練習の促進と発音改善につながったと考える。今後、より多くの文章を通した音読学習を行うことで、さらなる練習の促進と早い段階でのデコーディング自動化につながれると考える。

#### 5. 4 発音の定着

指導方略により発音の定着が行われた根拠として、アンケート結果と期末口頭試験、音読課題における自己評価と教員フィードバックの差から確認でき、表 18 にまとめた通りである。

表 18：発音の定着

検証方法	アンケート	結果
検証内容	図 23：音読学習を通し、音韻変化の種類や変化過程を理解し、正しく発音できるようになった	肯定的な回答：前期 90%、後期 88%
	図 24：前期と比べ音読学習を通し、文字を正しく発音できるようになった	肯定的な回答：90%
	図 25：韓国語を発音することに自信もてた	肯定的な回答：前期 68%、後期 75%

検証方法	口頭試験	結果
検証内容	図 18 : 問題種別正答率	音韻変化の正答率:後期での鼻音化の正答率がやや低下、それ以外での変化なし 文字の正答率 : 前期 50%、後期 83%
	図 19 : 総合点獲得状況	総合点 9 割以上:前期 55%、後期 72%
検証方法	音読課題	結果
検証内容	図 51 : 前期音読課題提出 1 回目自己評価と教員フィードバックの差 (全体平均)	最大 7.8、最小 2.5
	図 52 : 後期音読課題提出 1 回目自己評価と教員フィードバックの差 (全体平均)	最大 3.9、最小 2.1
	図 53 : 前期音読課題提出 2 回目自己評価と教員フィードバックの差 (全体平均)	最大 6.1、最小 1.6
	図 54 : 後期音読課題提出 2 回目自己評価と教員フィードバックの差 (全体平均)	最大 1.7、最小 0.8

図 18 の口頭試験結果から、前後期とも音韻変化の正答率に大きな変動はないが、文字の正確性に関しては、後期で 33%の上昇が見られた。総合点 9 割以上獲得者が前期で 5 割 (図 19 参照) だったのに対し、後期では 7 割まで増加したことが確認できる。これらの結果から、音読学習の継続が発音定着に結びついたと考える。また、図 51 から 54 で示した通り、自己評価と教員フィードバックの差が前期よりも後期で縮まっていることから、自己評価と教員フィードバックによる音読学習を繰り返し行ってきたことで、正しい発音を認識でき、自分で自分の発音を改善できる能力が身についたと考えられる。

以上の結果から、改善版教育を通し、音読学習を継続して来たことで、正しい発音の定着につながったと考えられる。図 23 と 24 から、音読学習を通し、学習者が音韻変化と文字の発音定着を実感していることが確認できる。一方で、韓国語を発音することに対す

る自信（図 25 参照）では、肯定的な回答が前期は6割台、後期は7割台にとどまり、他のアンケート設問やデータの結果と比べてもやや低い数値であり、学習結果が十分に発音への自信に結びついていないと考えられる。

## 5. 5 設計上の妥当性と改善点

教育設計で使用した Edmodo と模範音声動画の使用方法について、アンケート結果（表 19 参照）からその妥当性と改善点の検証を行い、上記で述べた学習効果との関連について述べた。

表 19：Edmodo と音声動画の使用方法について

検証方法	アンケート	結果
検証内容	図 38：（携帯から音声を提出していた人のみ）音声を問題なく提出できた	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答：回答者 38 人中 36 人</li> <li>提出できなかった（1 件）、アプリが開けなかった（1 件）の問題報告</li> </ul>
	図 39：（パソコンから音声提出していた人のみ）音声を問題なく提出できた	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答：回答者 7 人中 6 人</li> <li>音声ファイルが保存できない（1 件）の問題報告</li> </ul>
	図 40：音読チェックリストの記入、提出を問題なく行っていた	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答：回答者 36 人中 35 人</li> <li>提出方法が複雑（1 件）の問題報告</li> </ul>
	図 41：スローバージョンの音声は、発音を正しく理解する上で必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な回答：回答者 36 人中 33 人</li> </ul>
	図 42：音声動画での個別練習を通し、正しい発音を身につけられた	肯定的な回答：回答者 36 人すべて

図 38、39、40 から、ほとんどの学習者が問題なく Edmodo 上での課題提出を行っており、図 41 と 42 から、学習者が模範音声動画での個別練習に対し、肯定的であることが確認できる。また、これまで述べた音読促進と発音改善、および発音定着に関する学習結果からも、Edmodo と模範音声動画が正しく使用され、学習遂行と学習成果に大きく支障をきたしていないことが確認できる。

一方で、「提出できない」や「提出方法が複雑」等の問題も一部報告され、課題提出の簡素化と、引き続き不具合が生じた場合の個別対応と事前周知の強化が求められる。特に、課題提出の簡素化については、さらなる練習促進と発音改善を目指す上で欠かせないと考ええる。

## 5. 6 考察のまとめ

考察の結果を図 55 にまとめた。音読評価基準の明確化、および自己評価と教員フィードバックにより音読練習と発音改善が促進され、発音定着につながったと考えられる。一方で、学習者の韓国語発音に対する自信が他のデータ結果と比べ高くないことから、学習の結果が発音の自信へ十分につながっていないことが明らかになった。今後、教科書の会話文に限らず、より多くの文章を通した音読機会の提供と課題提出方法の簡素化をもとに再設計を行うことで、学習者の音読練習の頻度をさらに促進させ、早い段階でのデコーディング自動化が期待でき、最終的に学習者の韓国語発音に対する自信にもつながるのではと考える。

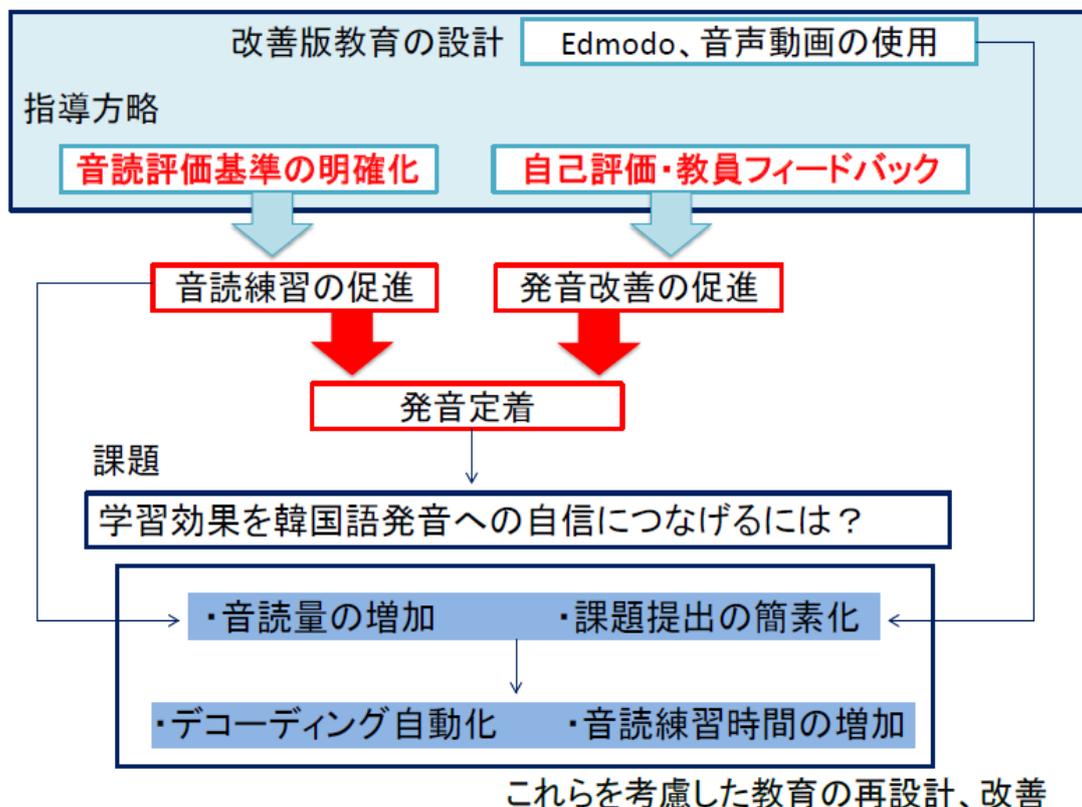


図 55：学習効果と今後の課題

## 第6章 おわりに

### 6.1 まとめ

本研究では、学習者の音読による練習機会の促進と発音習得を目的とした韓国語音読教育の設計と実践を行い、その効果を検証した。

従来教育の問題を「指導方法と内容」、および「授業時間」の視点から分析を行った。「指導方法と内容」の問題として、音読評価基準を明確に示していないこと、「授業時間」の問題として、フィードバックが遅く、改善の機会がないことが確認された。これらの問題を解決する指導方略として、音読評価基準を明確にした音読チェックリストの作成と、授業外フィードバックを通じた改善機会の導入を行った。教育設計にあたっては、教育用 SNS (Social Networking Service) の Edmodo を使用し、学習者が独りで音読学習を行えるように、音読チェックリストを通じた個別音読練習と自己評価、教員フィードバックによる発音改善を毎回の音読課題として実施した。

教育実践による効果検証の結果、多くの学習者が音読チェックリストの項目を理解しながら学習を進めており、音読課題の分析結果から、前後期ともほとんどの課で教員フィードバックを実施していない1回目提出時の獲得評価が8割を超えていること、音読評価基準をより明確に提示した後期で不合格者数が減少したこと、また、評価5獲得者が前期よりも後期で増加していることから、音読評価基準の明確化により学習者の確実な音読学習が行われ、音読練習の促進が行われたと考えられる。また、学習者の多くが自己評価と教員フィードバックの差を意識しながら音読学習を行っていたこと、音読課題獲得点数の平均が各課1回目より2回目の提出時に伸びていたことから、自己評価と教員フィードバックにより、学習者の発音改善につながったと考えられる。音読練習促進と発音改善の根拠として、学習者の多くが音読課題を確実に進められたことに対し肯定的であったこと、音読課題の提出率がほとんどの課において9割以上であったこと、週に2, 3回以上の練習を行った学習者が前後期ともに8割以上であり、自己評価と教員フィードバック前後の練習と改善がそれぞれ1回以上ずつ行われていたことが挙げられる。更に、教育設計で使用した Edmodo と模範音声動画を通し、ほとんどの学習者が問題なく音読練習と課題提出を行っており、Edmodo と模範音声動画の使用が学習遂行と学習成果に支障をきたしていないことが確認できる。

以上の結果から、音読評価基準の明確化、および自己評価と教員フィードバックにより

音読練習と発音改善が促進され、これらを繰り返し行って来たことで、正しい発音の定着につながったと考えられる。正しい発音定着の根拠として、前後期の口頭試験における音韻変化の正答率に大きな変動がない一方で、文字の正確性に関しては前期と比べ後期で33%の上昇が見られたこと、そして総合点9割以上取得者が前期と比べ後期で17%増加したことが挙げられ、音読学習の継続が発音定着に結びついたと考えられる。更に、自己評価と教員フィードバックの差が前期よりも後期で縮まっていることから、学習者が正しい発音を認識できるようになり、学習初期に比べ自分で自分の発音を改善できる能力が身についたと考えられる。

## 6. 2 今後の課題と展望

学習者の韓国語発音に対する自信、および自己評価のみでの発音改善に関する自信が他のデータ結果と比べ高くないことから、学習の結果が発音に関する自信へ十分につながっていないことが明らかになった。1回あたりの音読練習時間が多くない一方で、ほとんどの学習者が音読課題で合格ラインに達し、口頭試験での総合点全体平均が8割を超えていることから、教科書の会話文に限らず、より多くの文章を通した音読機会の提供が望まれる。また、音読課題提出に関して、「提出方法が複雑」等の問題が一部報告されており、課題提出方法の簡素化が求められる。これらを考慮した改善と再設計により、さらなる音読練習の促進と早い段階でのデコーディング自動化の達成が期待され、最終的に学習者の韓国語発音に対する自信につながるのではと考える。これらを今後の課題とし、次の研究に生かしていきたい。

この研究は、これまで研究報告のなかった音読による韓国語発音教育の実践を行った点、学習支援の立場から授業時間に制限のある学習者を対象に教育研究を行った点において意義があると考えられる。今後、今回の研究で明らかになった課題とともに、教員による学習支援の在り方に焦点を当て、学習者の学びを支援する韓国語音読教育の確立を目指したいと考える。

## 謝辞

本研究を進めるにあたりご指導を賜りました熊本大学大学院教授システム学専攻の平岡齊士准教授、戸田真志教授、鈴木克明教授に深謝いたします。また、本研究の実施にあたり、口頭試験の評価にご協力いただきました韓壽燕先生、そして、多くの知見や励ましをいただいた教授システム学専攻の諸先輩方ならびに同期の皆様にあらためて御礼を申し上げます。

## 参考文献

- 1) 石田雅近、古家貴雄、小泉仁 (2013)、「新しい英語科授業の実践：グローバル時代の人材育成をめざして」、金星堂。
- 2) 重田勝介 (2013)、「反転授業 ICT による教育改革の進展」、情報管理、56 (10)、677-684。
- 3) ジョナサン・バーグマン、アーロン・サムズ (著)、山内祐平、大浦弘樹 (監修)、上原裕美子 (訳) (2014)、「反転授業」、オデッセイコミュニケーションズ。
- 4) 鈴木克明 (2002)、「教材設計マニュアル ー独学を支援するためにー」、北大路書房。
- 5) 鈴木政浩、阿久津仁史、飯野厚 (2009)、「ソフトウェアを活用した音読スコアの推移分析：音読練習 20 回は妥当か?」、外国語教育メディア学会、Language education & technology (46)、61-78。
- 6) 土屋澄男 (2004)、「音読指導ー英語コミュニケーションの基礎を作るー」、研究社。
- 7) 中森誉之 (2010)、「学びのための英語指導理論 ー4 技能の指導方法とカリキュラム設計の提案ー」、ひつじ書房。
- 8) 橋本直子、東原義訓 (2002)、「ポートフォリオ評価を取り入れた英語科における音読学習」、信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践研究』No. 3、151-160。
- 9) 藤本直哉 (2011)、「音読の評価についてーデコーディングの自動化に焦点を当てた単音読テストの提案」『英語教育』11 月号、66-68。
- 10) 藤本直哉 (2013)、「音読の段階的指導および段階的評価の提案：prosody の指導と評価」『英語教育』12 月号、62-64。
- 11) 藤代昇丈、宮地功 (2009)、「ブレンド型授業による英語の音読力と自由発話力に及ぼす影響」、日本教育工学会論文誌 32 (4)、395-404。
- 12) 米崎里 (2012)、「日本人英語学習者のスピーキング能力の土台としての音読の有用性」、

日本教科教育学会誌 35 (1)、31-40.

13) 김은애 (2006)、「한국어 학습자의 발음 오류 진단 및 평가에 관한 연구」、국제한국어교육학회, <한국어 교육>17 권 1 호、71-97.

14) 박성희 (2016)、「한국어 음운 변동 규칙의 교육 방안 연구: 초급 학습자를 대상으로」、인하대학교 교육대학원 석사논문.

15) 이현아 (2008)、「한국어 음운 변동 규칙의 효율적인 발음 교육 방안 연구」、동아대학교 대학원 석사논문.

16) 이효숙 (2012)、「한국어교육에서의 효율적인 발음교육 방안 연구: 일본인 초급학습자를 대상으로」、인하대학교 대학원, 박사논문.

17) 国語辞書 (2013)、旺文社、219.

18) 財団法人国際文化フォーラム (2005)、「日本の学校における韓国朝鮮語教育: 大学等と高等学校の現状と課題」.

19) ReseMom

<http://resemom.jp/article/2014/10/28/21136.html>

20) Edmodo

<https://www.edmodo.com/about>

21) 木内明 (2013)、「基礎から学ぶ韓国語講座初級 改訂版」、国書刊行会.

## 資料

1) 前期口頭試験問題.....	62
2) 後期口頭試験問題.....	63
3) 前期アンケート内容.....	64
4) 後期アンケート内容.....	66
5) 各課音読チェックリスト.....	68
6) 音読チェックリスト使用例.....	84

韓国語 I 口頭試験

안녕하세요? 저는 (自分の名前)라고 합니다.

외국은 한국이 처음입니까?

아뇨, 처음이 아닙니다.

오늘 시간 있습니까?

백화점에서 쇼핑해요.

학생식당까지 어떻게 가요?

버스로 가요.

내일 어떻습니까?

학교에서 공부해요.

남자 친구는 오늘 뭐 해요?

무역회사에서 일해요.

韓國語Ⅱ 口頭試驗

좋아요. 이거 주세요.

정말 잘하네요.

지금 몇 시예요?

철수 씨 아버님 뭐 보십니까?

아직 멀었어요.

몇 번 버스가 경복궁에 가요?

저 다음 주에 귀국해야 돼요.

옛날 식당이 있어요.

여보세요. 지금 전화 괜찮아요?

저는 그렇게 약하지 않아요.

한국말로 뭐라고 해요?

생일 축하합니다.

운동화네요. 고마워요.



## 2. Edmodo の使い方に関して

質問事項	回答
① (携帯から音声を出していた人のみ) 音声を問題なく提出できた	そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない
①で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えた人のみ、その理由を書いてください	[理由]
② (パソコンから音声を出していた人のみ) 音声を問題なく提出できた	そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない
②で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えた人のみ、その理由を書いてください。	[理由]
③音読チェックリストの記入、提出を問題なく行っていた	そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない
③で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」と答えた人のみ、その理由を書いてください	[理由]
④ その他、Edmodo の使い方に関して、改善点があれば記入してください	[改善点]

## 3. 音声動画について

質問事項	回答
①スローバージョンの音声は、発音を正しく理解する上で必要である	そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない
②音声動画での個別練習を通し、正しい発音を身につけられた	そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない
③音声動画での個別練習について、改善してほしいことがあれば記入してください	[理由]

수고하셨습니다. 감사합니다.

-끝-



⑩ 担当教員からのフィードバックの内容は、正しい発音の定着に役立った	そう思う・どちらかといえばそう思う・ どちらかといえばそう思わない・そう思わない
⑪ 音読チェックリストによる自己評価とフィードバックの差を意識しながら、音読練習を行った	そう思う・どちらかといえばそう思う・ どちらかといえばそう思わない・そう思わない
⑫ 自己評価と教員フィードバックにより、正しい発音が定着した	そう思う・どちらかといえばそう思う・ どちらかといえばそう思わない・そう思わない
⑬ 前期と比べ、自分の発音状況を正しく把握でき、教員からのフィードバックを受けなくても自分で正しい発音を習得できるようになった	そう思う・どちらかといえばそう思う・ どちらかといえばそう思わない・そう思わない
⑭ 授業外の「改善の機会」は発音の定着に役立った	そう思う・どちらかといえばそう思う・ どちらかといえばそう思わない・そう思わない
⑮ 前期、後期とも授業外の発音練習をよく行った	そう思う・どちらかといえばそう思う・ どちらかといえばそう思わない・そう思わない
⑯ 前期、後期で行った音読課題がなくても、自ら進んで音読練習を行ったと思う	そう思う・どちらかといえばそう思う・ どちらかといえばそう思わない・そう思わない
⑰ 週に何回音読練習を行いましたか	週1回・ 週2、3回・ 週4、5回・ 週6、7回
⑱ 1回あたりの音読練習時間はどれくらいですか	30分未満・ 30分以上1時間未満・ 1時間以上1時間30分未満・ 1時間30分以上2時間未満・ それ以上

수고하셨습니다. 감사합니다.

-끝-

### 第1課会話文 チェックリスト

\* の部分は、発音変化の箇所

N O	行数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
			弱	鼻		弱	鼻	
1	①	「안녕하십니까?」を弱音化と鼻音化で「안녕아십니까?」と発音できている。	弱		鼻	弱		鼻
2	②	「안녕하세요?」を弱音化で「안녕아세요?」と発音できている。	弱		/	弱		/
3	③	「저는 (自分の名前)입니다」を鼻音化で「저는 (自分の名前)입니다」と発音できている。	鼻		/	鼻		/
4	④	「일본 사람입니다」を連音化と鼻音化で「일본 사라입니다」と発音できている。	連		鼻	連		鼻
5	⑤	「저는 박철수라고 합니다」を鼻音化で「저는 박철수라고 합니다」と発音できている。	鼻		/	鼻		/
6	⑥	「학생입니다」を濃音化と鼻音化で「학생입니다」と発音できる。	濃		鼻	濃		鼻
7	⑥	「수학입니다」を連音化と鼻音化で「수하깁니다」と発音できる。	連		鼻	連		鼻
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい		/	はい		/
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい		/	はい		/

### 第1課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
12~13	5	
10~11	4	
7~9	3	
4~6	2	
1~3	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント

## 第2課会話文 チェックリスト

\* の部分は、発音変化の箇所

N O	行 数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
			連	鼻		連	鼻	
1	①	「서울입니까?」を連音化と鼻音化で「서우릅니까?」と発音できている。	連	鼻		連	鼻	
2	②	「부산입니다」を連音化と鼻音化で「부사닙니다」と発音できている。	連	鼻		連	鼻	
3	③	「제 고향은 도쿄입니다」を鼻音化で「제 고양은 도쿄입니다」と発音できている。	弱	鼻		弱	鼻	
4	④	「외국은」を連音化で「외구근」と発音できている。	連		/	連		/
5	④	「우리 나라가 처음입니까?」を連音化と鼻音化で「우리 나라가 처으밍니까?」と発音できている。	連	鼻		連	鼻	
6	⑤	「네, 한국어」を連音化で「네, 한구기」と発音できる。	連		/	連		/
7	⑤	「처음입니다」を連音化と鼻音化で「처으밍니다」と発音できる。	連	鼻		連	鼻	
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい		/	はい		/
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい		/	はい		/

## 第2課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
13~14	5	
10~12	4	
7~9	3	
4~6	2	
1~3	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント

### 第3課会話文 チェックリスト

\* の部分は、発音変化の箇所

N O	行 数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
			連	鼻	濃	連	鼻	濃
1	①	「이 건물은」を連音化で「이 건부 <sup>*</sup> 른」と発音できている。	連			連		
2	①	「도서관입니까?」を連音化と鼻音化で「도서관 <sup>*</sup> 입니까?」と発音できている。	連	鼻		連	鼻	
3	②	「이것은」を連音化で「이거 <sup>*</sup> 슨」と発音できている。	連			連		
4	②	「도서관이 아닙니다」を連音化と鼻音化で「도서관 <sup>*</sup> 이 아닙니다」と発音できている。	連	鼻		連	鼻	
5	③	「저것도」を濃音化で「저거 <sup>*</sup> 또」と発音できている。	濃			濃		
6	③	「도서관이 있습니까?」を連音化と鼻音化で「도서관 <sup>*</sup> 이 있습니까?」と発音できる。	連	鼻		連	鼻	
7	④	「네, 아닙니다」を連音化と鼻音化で「네, 아 <sup>*</sup> 닙니다」と発音できる。	鼻			鼻		
8	⑤	「학생식당」を濃音化(×2)で「학 <sup>*</sup> 생식 <sup>*</sup> 당」と発音できる。	濃	濃		濃	濃	
9	⑤	「입니까?」を鼻音化で「이 <sup>*</sup> 니까?」と発音できる。	鼻			鼻		
10	⑥	「네, 그렇습니다」を濃音化と鼻音化で「네, 그 <sup>*</sup> 림 <sup>*</sup> 습니다」と発音できる。	濃	鼻		濃	鼻	
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい			はい		
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい			はい		

### 第3課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
15~17	5	
12~14	4	
9~11	3	
5~8	2	
1~4	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント

#### 第4課会話文 チェックリスト

\* の部分は、発音変化の箇所

N O	行 数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
			濃	鼻	連	濃	鼻	連
1	①	「있습니까?」を濃音化と鼻音化で「 <u>잇</u> 습니까?」と発音できている。	濃	鼻		濃	鼻	
2	②	「오늘은」を連音化で「 <u>오느</u> 른」と発音できている。	連		/	連		/
3	②	「약속이」を濃音化と連音化で「 <u>약</u> 쓰기」と発音できている。	濃	連		濃	連	
4	②	「있습니다」を濃音化と鼻音化で「 <u>잇</u> 습니다」と発音できている。	濃	鼻		濃	鼻	
5	③	「내일은」を連音化で「 <u>내이</u> 른」と発音できている。	連		/	連		/
6	③	「어떻습니까?」を濃音化と鼻音化で「 <u>어</u> 떻습니까?」と発音できる。	濃	鼻		濃	鼻	
7	⑤	「영화 티켓이」を弱音化と連音化で「 <u>영</u> 와 티켓이」と発音できる。	弱	連		弱	連	
8	⑤	「있습니다」を濃音化と鼻音化で「 <u>잇</u> 습니다」と発音できる。	濃	鼻		濃	鼻	
9	⑥	「미안합니다」を弱音化と鼻音化で「 <u>미</u> 안합니다」と発音できる。	弱	鼻		弱	鼻	
10	⑥	「영화에는 관심이」を弱音化と連音化で「 <u>영</u> 와에는 관심이」と発音できる。	弱	連		弱	連	
11	⑥	「없습니다」を濃音化と鼻音化で「 <u>업</u> 습니다」と発音できる。	濃	鼻		濃	鼻	
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい		/	はい		/
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい		/	はい		/

#### 第4課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
20~22	5	
16~19	4	
11~15	3	
6~10	2	
1~5	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント

### 第5課会話文 チェックリスト

\*           の部分は、発音変化の箇所

N O	行数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
			連	鼻	濃	連	鼻	濃
1	①	「주말에는」を連音化で「주마레는」と発音できている。	連			連		
2	②	「무엇을 합니까?」を連音化と鼻音化で「무어슬 합니까?」と発音できている。	連	鼻		連	鼻	
3	②	「무엇입니까?」を連音化と鼻音化で「무어십니까?」と発音できている。	連	鼻		連	鼻	
4	②	「노래입니다」を鼻音化で「노래입니다」と発音できている。	鼻			鼻		
5	③	「노래합니다」を鼻音化で「노래합니다」と発音できている。	鼻			鼻		
6	③	「좋아합니다」を無音化と鼻音化で「조아합니다」と発音できる。	無	鼻		無	鼻	
7	⑤	「재미있습니다」を濃音化と鼻音化で「재미있쑈니다」と発音できる。	濃	鼻		濃	鼻	
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい			はい		
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい			はい		

### 第5課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
12~13	5	
10~11	4	
7~9	3	
4~6	2	
1~3	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント

## 第7課会話文 チェックリスト

\* の部分は、発音変化の箇所

N O	行数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
			鼻	連	弱	鼻	連	弱
1	①	「오늘 바깥니까?」を鼻音化で「오늘 바깥니까?」と発音できている。	鼻			鼻		
2	②	「동대문에서」を連音化で「동대무네서」と発音できている。	連			連		
3	②	「옷을 삼니다」を連音化と鼻音化で「오슬 삼니다」と発音できている。	連	鼻		連	鼻	
4	③	「어떻게 갑니까?」を激音化と鼻音化で「어떠케 갑니까?」と発音できている。	激	鼻		激	鼻	
5	④	「남친하고」を弱音化で「남치나고」と発音できている。	弱			弱		
6	④	「지하철로 갑니다」を鼻音化で「지하철로 갑니다」と発音できる。	鼻			鼻		
7	⑥	「여자 친구를 만납니다」を鼻音化で「여자 친구를 만납니다」と発音できる。	鼻			鼻		
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい			はい		
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい			はい		

## 第7課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
10~11	5	
8~9	4	
6~7	3	
4~5	2	
1~3	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント

## 第8課会話文 チェックリスト

\*            の部分は、発音変化の箇所

N O	行 数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
			連	無	激	連	無	激
1	①	「한국 음식은」を連音化(×2)で「한구금시근」と発音できている。	連			連		
		「괜찮아요?」を連音化(例外)で「괜차나요」と発音できている。	連			連		
2	②	「네, 잘 먹어요」を連音化で「네, 잘 머거요」と発音できている。	連			連		
3	③	「특히 뭘 좋아해요?」を激音化と無音化で「특키 뭘 조아해요?」と発音できている。	激	無		激	無	
4	④	「맛있어요.」を連音化(×2)で「마시쎬요」と発音できている。	連	連		連	連	
5	⑥	「우리 집에 갈비 먹으러 와요」を連音化(×2)で「우리 지베 갈비 머그러 와요」と発音できている。	連	連		連	連	
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい			はい		
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい			はい		

## 第8課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
11~12	5	
9~10	4	
7~8	3	
4~6	2	
1~3	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント

## 第6課会話文 チェックリスト

\* の部分は、発音変化の箇所

N O	行 数	チェック項目	自己評価 ☑			フィードバック☑		
1	②	「남자친구가 있어요?」を連音化で「남자친구가 이썬요?」と発音できている。	連			連		
2	③	「어디, 어디에 있어요? 」を連音化で「어디, 어디에 이썬요?」と発音できている。	連			連		
3	④	「무역 회사에서 일해요」を激音化と弱音化で「무역 회사에서 이래요」と発音できている。	激	弱		激	弱	
4	⑤	「여자 친구 없어요?」を連音化で「여자 친구 업썬요?」と発音できている。	連			連		
5	⑥	「친구라면 많이 있어요」を連音化(×2)で「친구라면 마니 이썬요」と発音できている。	連	連		連	連	
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい			はい		
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい			はい		

## 第6課評価点

チェック項目数	点数	評価 ☑
9	5	
7~8	4	
5~6	3	
3~4	2	
1~2	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)	フィードバックコメント

### 第9課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
		文字	連	鼻	文字	連	鼻
1	「아저씨, 이 티셔츠 얼마예요?」を正しく発音できている。	文字			文字		
2	「그건 이만 오천원입니다」を連音化(×3)と鼻音化で「그건 이마 노쳐워입니다」と正しく発音できている。	連		連	連		連
		連		鼻	連		鼻
		文字			文字		
3	「좀 비싸요」を正しく発音できている。	文字			文字		
2	「그럼 이걸 어때요?」を連音化で「그럼 이거 너때요?」と正しく発音できている。	連		文字	連		文字
3	「이걸 만 원만 주세요」を連音化で「이걸 마 원만 주세요」と正しく発音できている。	連		文字	連		文字
4	「좋아요. 이거 주세요」を無音化で「조아요」と正しく発音できている。	無		文字	無		文字
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。						

### 第9課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
13~14	5	
10~12	4	
7~9	3	
4~6	2	
1~3	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)

フィードバック (良かった点)

フィードバック (改善点)

--	--

### 第10課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
		連	濃	文字	連	濃	文字
1	「오후에 수업이 몇 개 있어요?」を連音化×2と濃音化で「오후에 수어비 몇 개 이세요?」正しく発音できる。	連		濃	連		濃
		連		文字	連		文字
2	「하나 있어요.」を連音化で「하나 이세요」と正しく発音できる。	連		文字	連		文字
3	「몇 시부터 몇 시까지예요?」を濃音化×2で「몇 시부터 몇 시까지예요?」と正しく発音できている。	濃		濃	濃		濃
		文字		/	文字		/
4	「한 시부터 두 시 반까지예요」を正しく発音できる。	文字		/	文字		/
		文字		/	文字		/
5	「지금 몇 시예요?」を濃音化で「지금 몇 시예요?」と正しく発音できている。	濃		文字	濃		文字
6	「한 시 오 분 전이에요」を連音化で「한 시 오 분 전이에요」と正しく発音できる。	連		文字	連		文字
7	「빨리 가요」を正しく発音できる。	文字		/	文字		/
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。	速度		/	速度		/

### 第10課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
15~16	5	
12~14	4	
9~11	3	
5~8	2	
1~4	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)

--

フィードバック (良かった点)	フィードバック (改善点)

### 第11課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
		鼻	文字		鼻	文字	
1	「철수 씨 아버님, 뭐 보십니까?」を鼻音化で「철수 씨 아버님, 뭐 보 <u>ㅂ</u> ㅂ니까」正しく発音できる。	鼻	文字		鼻	文字	
2	「유카리 씨 블로그요。」を正しく発音できる。	文字			文字		
3	「우리 철수가 매일 봐요。」を正しく発音できている。	文字			文字		
4	「어머, 혹시 일본말 하세요?」を濃音化で「어머, <u>ㅎ</u> 씨 일본말 하세요?」と正しく発音できる。	濃	文字		濃	文字	
5	「제 블로그는 일본말 밖에 없어요。」を連音化×2で「제 블로그는 일본말 <u>바</u> 게 <u>업</u> 세요」と正しく発音できている。	連 文字	連 (濃)		連 文字	連 (濃)	
6	「조금요, 이건 한국말로 뭐라고 해요?」をㄴ添加と鼻音化で「조 <u>ㄴ</u> 금요, 이건 <u>ㅎ</u> 한국말로 뭐라고 해요」と正しく発音できる。	ㄴ 文字	鼻		ㄴ 文字	鼻	
7	「글세요… 비밀이에요」を連音化で「비 <u>미</u> 리예요」正しく発音できる。	連	文字		連	文字	
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。	速度			速度		

### 第11課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
15	5	
12~14	4	
9~11	3	
5~8	2	
1~4	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)

フィードバック (良かった点)	フィードバック (改善点)

第12課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>		フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>	
		濃	濃	濃	濃
1	「몇 번 버스가 경복궁에 가요?」を濃音化と濃音化で正しく発音できる。	濃	濃	濃	濃
		文字	/	文字	/
2	「버스는 안 가요。」を正しく発音できる。	文字	/	文字	/
		文字	/	文字	/
3	「제 차만 가요。」を正しく発音できている。	文字	/	文字	/
		文字	/	文字	/
4	「버스가 없어요?」を連音化で正しく発音できる。	連	文字	連	文字
		文字	/	文字	/
5	「그럼 걸어가면 돼요。」を連音化で正しく発音できている。	連	文字	連	文字
		文字	/	文字	/
6	「너무 멀어요。」を連音化で正しく発音できる。	連	文字	連	文字
		文字	/	文字	/
7	「유카리 씨 병 나요。」を正しく発音できる。	文字	/	文字	/
		文字	/	文字	/
8	「저는 그렇게 약하지 않아요」を激音化×2と連音化で正しく発音できる。	激	激	激	激
		連	文字	連	文字
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。	速度	/	速度	/

第12課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
16~17	5	
13~15	4	
9~12	3	
5~8	2	
1~4	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)

フィードバック (良かった点)	フィードバック (改善点)

### 第13課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
		連	濃		連	濃	
1	「언제 한국에 왔습니까?」を連音化と濃音化と鼻音化で正しく発音できる。	連	濃		連	濃	
		鼻	文字		鼻	文字	
2	「사월 초에 왔어요.」を連音化で正しく発音できる。	連	文字		連	文字	
3	「한국어는 어렵지 않아요?」を連音化と濃音化と連音化で正しく発音できている。	連	濃		連	濃	
		連	文字		連	文字	
4	「일본에서도 조금 공부했어요.」を連音化で正しく発音できる。	連	連		連	連	
		文字	/	/	文字	/	/
5	「정말 잘하네요.」を弱音化で正しく発音できている。	弱	文字		弱	文字	
6	「아직 멀었어요.」を濃音化と連音化で正しく発音できる。	濃	連		濃	連	
		文字	/	/	文字	/	/
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。	速度	/	/	速度	/	/

### 第13課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
18~19	5	
16~17	4	
15~10	3	
9~5	2	
4~1	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)

--

フィードバック (良かった点)

フィードバック (改善点)

--	--

第 14 課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 ☑			フィードバック ☑		
		連	文字		連	文字	
1	「언제 한번 민속촌에 가요!」を連音化で正しく発音できる。	連	文字		連	文字	
2	「민속촌 안에 옛날 식당이 있어요。」を連音化と鼻音化と濃音化と連音化で正しく発音できる。	連	鼻		連	鼻	
		濃	連		濃	連	
		文字			文字		
3	「거기서 같이 점심 먹읍시다!」を口蓋音化(連音化の例外)と連音化と濃音化で正しく発音できている。	口	連		口	連	
		濃	文字		濃	文字	
4	「무슨 요일예요?」をㄴの添加と連音化で正しく発音できる。	ㄴ	連		ㄴ	連	
		文字			文字		
5	「이번 주 일요일예요。」を連音化×2で正しく発音できている。	連	連		連	連	
		文字			文字		
6	「일요일은 언제나 시간이 없어요。」を連音化×2と連音化の例外で正しく発音できる。	連	連		連	連	
		連(濃)	文字		連(濃)	文字	
速度(全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。	速度			速度		

第 14 課評価点

チェック項目数	点数	評価 ☑
20~22	5	
18~19	4	
13~17	3	
7~12	2	
1~6	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)

--

フィードバック (良かった点)	フィードバック (改善点)

### 第15課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>				フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>			
		連		文字		連		文字	
1	「어서 오세요, 누구하고 왔어요?」を連音化で正しく発音できる。	連		文字		連		文字	
2	「혼자 왔어요, 생일 축하합니다」を連音化と激音化と鼻音化で正しく発音できる。	連		激		連		激	
		鼻		文字		鼻		文字	
3	「선물 받으세요,」を連音化で正しく発音できている。	連		文字		連		文字	
4	「운동하네요, 고마워요,」を弱音化で正しく発音できる。	弱		文字		弱		文字	
5	「다들 뭐 하고 있어요?」を連音化で正しく発音できている。	連		文字		連		文字	
6	「파티 준비하고 있어요,」を連音化×2と連音化の例外で正しく発音できる。	連		文字		連		文字	
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。	速度				速度			

### 第15課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
14~15	5	
12~13	4	
9~11	3	
5~8	2	
1~4	1	

### 自己評価コメント (任意・自由記述)

--

フィードバック (良かった点)	フィードバック (改善点)

### 第 19 課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
		弱	連		弱	連	
1	「여보세요. 지금 전화 괜찮아요?」を弱音化と連音化で正しく発音できる。						
		文字			文字		
2	「네, 무슨 일이에요?」をㄴの添加と連音化で正しく発音できる。	ㄴ			ㄴ		
		文字			文字		
3	「실은 저 다음 주에 귀국해야 돼요。」を連音化と激音化で正しく発音できている。	連			連		
		文字			文字		
4	「귀국? 왜 귀국해야 합니까?」を激音化と鼻音化で正しく発音できる。	激			激		
		文字			文字		
5	「이유를 꼭 이야기해야 돼요?」を正しく発音できている。	文字			文字		
6	「무조건 저는 배웅하겠습니다。」を連音化×2と連音化の例外で正しく発音できる。	濃			濃		
		文字			文字		
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。	速度			速度		

### 第 19 課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
17~16	5	
15~14	4	
13~10	3	
9~6	2	
5~1	1	

自己評価コメント (任意・自由記述)

フィードバック (良かった点)	フィードバック (改善点)

自己評価と教員フィードバック例（前期、1回目）

第7課会話文 チェックリスト

\* の部分は、発音変化の箇所

N O	行 数	チェック項目	自己評価 ☑				フィードバック☑			
			鼻	連	弱	激	鼻	連	弱	激
1	①	「오늘 바쁘니까?」を鼻音化で「오늘 바쁨니까?」と発音できている。	鼻	○	/	/	鼻	○	/	/
2	②	「동대문에서」を連音化で「동대무네서」と発音できている。	連	○	/	/	連	○	/	/
3	②	「옷을 삽니다」を連音化と鼻音化で「오슬 삽니다」と発音できている。	連	×	鼻	○	連	○	鼻	○
4	③	「어떻게 갑니까?」を激音化と鼻音化で「어떠케 갑니까?」と発音できている。	激	○	鼻	○	激	×	鼻	○
5	④	「남친하고」を弱音化で「남치나고」と発音できている。	弱	×	/	/	弱	○	/	/
6	④	「지하철로 갑니다」を鼻音化で「지하철로 갑니다」と発音できる。	鼻	○	/	/	鼻	○	/	/
7	⑥	「여자 친구를 만납니다」を鼻音化で「여자 친구를 만납니다」と発音できる。	鼻	×	/	/	鼻	×	/	/
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	はい	○	/	/	はい	○	/	/
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	はい	×	/	/	はい	×	/	/

第7課評価点

チェック項目数	点数	評価 ☑
11~12	5	
9~10	4	
7~8	3	○
4~6	2	
1~3	1	

自己評価コメント（任意・自由記述）	フィードバックコメント
	<p>「오늘」→パッチムを「ru」と発音しているので最後「L (ㄹ)」で止めましょう。</p> <p>「남친하고」→「남」のmの発音が「mu」に聞こえるので、口を閉じてmを発音しましょう。</p> <p>「만납니다」→鼻音化 (p(ㅍ)→m(ㅁ)) がうまく発音できていません。口を閉じてmを確実に発音しましょう。</p>

自己評価と教員フィードバック例（前期、最終評価）

第8課会話文 チェックリスト

\*          の部分は、発音変化の箇所

N O	行 数	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>				フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>			
			連	○	連	○	連	○	連	○
1	①	「한국 음식은」を連音化(×2)で「한구금시근」と発音できている。	連	○	連	○	連	○	連	○
		「괜찮아요?」を連音化(例外)で「괜차나요」と発音できている。	連	○			連	○		
2	②	「네, 잘 먹어요」を連音化で「네, 잘 머거요」と発音できている。	連	○			連	○		
3	③	「특히 뭘 좋아해요?」を激音化と無音化で「 <span style="background-color: #cccccc;">트키</span> 뭘 <span style="background-color: #cccccc;">조아</span> 해요?」と発音できている。	激	×	無	×	激	○	無	○
4	④	「맛있어요.」を連音化(×2)で「 <span style="background-color: #cccccc;">마시</span> 세요」と発音できている。	連	○	連	○	連	○	連	○
5	⑤	「우리 집에 갈비 먹으러 와요」を連音化(×2)で「우리 <span style="background-color: #cccccc;">지베</span> 갈비 <span style="background-color: #cccccc;">머그</span> 러 와요」と発音できている。	連	○	連	○	連	○	連	○
速度 (全体)		1文ずつ適切な速度で読めている。	は	×			は	○		
文字 (全体)		文字と発音を認識し、1文ずつ正しく発音できている。	は	×			は	○		

第8課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
9~10	5	○
7~8	4	
5~6	3	
3~4	2	
1~2	1	

自己評価コメント（任意・自由記述）	フィードバックコメント
もう少し速く読めるといいなと思いました。	とても丁寧に発音できていると思います。この調子で残りの音読も頑張りましょう。

自己評価と教員フィードバック例（後期、1回目）

第13課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 <input checked="" type="checkbox"/>			フィードバック <input checked="" type="checkbox"/>		
1	「언제 한국에 왔습니까?」を連音化と濃音化と鼻音化で正しく発音できる。	連	○	濃	×	連	○
		鼻	×	文字	○	鼻	×
2	「사실 초에 왔어요。」を連音化で正しく発音できる。	連	○	文字	×	連	○
		文字	○	文字	○	文字	○
3	「한국어는 어렵지 않아요?」を連音化と濃音化と連音化で正しく発音できている。	連	×	濃	○	連	○
		連	○	文字	○	連	○
4	「일본에서도 조금 공부했어요。」を連音化で正しく発音できる。	連	○	連	○	連	○
		文字	○	/	/	文字	○
5	「정말 잘하네요。」を弱音化で正しく発音できている。	弱	○	文字	○	弱	○
6	「아직 멀었어요。」を濃音化と連音化で正しく発音できる。	濃	×	連	○	濃	○
		文字	○	/	/	文字	○
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。	速度	○	/	/	速度	○

第13課評価点

チェック項目数	点数	評価 <input checked="" type="checkbox"/>
18~19	5	18
16~17	4	
15~10	3	
9~5	2	
4~1	1	

自己評価コメント（任意・自由記述）
2と4が難しいです

フィードバック（良かった点）	フィードバック（改善点）
文章全体において、文字の発音、発音変化、申し分ないと思います。アクセント、イントネーションも自然でした。 2と4に関しても、よくできていると思います。	1の鼻音化が若干「mu」と発音されていました。口を閉じてm（ロ）と発音しましょう。

自己評価と教員フィードバック例（後期、最終評価）

第 19 課会話文 チェックリスト

NO	チェック項目	自己評価 ☑				フィードバック ☑			
		弱	連	激	鼻	弱	連	激	鼻
1	「여보세요. 지금 전화 괜찮아요?」を弱音化と連音化で正しく発音できる。	弱	○	連	○	弱	○	連	○
		文字	○			文字	○		
2	「네, 무슨 일이에요?」をㄴの添加と連音化で正しく発音できる。	ㄴ	○	連	○	ㄴ	○	連	○
		文字	○			文字	○		
3	「실은 저 다음 주에 귀국해야 돼요.」を連音化と激音化で正しく発音できている。	連	○	激	○	連	○	激	○
		文字	○			文字	○		
4	「귀국? 왜 귀국해야 합니까?」を激音化と鼻音化で正しく発音できる。	激	×	鼻	○	激	○	鼻	○
		文字	○			文字	○		
5	「이유를 꼭 이야기해야 돼요?」を正しく発音できている。	文字	○			文字	×		
6	「무조건 저는 배웅 가겠습니다.」を連音化×2と連音化の例外で正しく発音できる。	濃	○	鼻	○	濃	○	鼻	○
		文字	○			文字	○		
速度 (全体)	1文ずつ適切な速度で読めている。	速度	○			速度	○		

第 19 課評価点

チェック項目数	点数	評価 ☑
17~16	5	16
15~14	4	
13~10	3	
9~6	2	
5~1	1	

自己評価コメント（任意・自由記述）

口頭試験までに第9課～15課と19課の会話文をしっかりと復習をして完璧にしておきたいと思います。また不得意な部分の発音の改善をしていきたいです。

フィードバック（良かった点）	フィードバック（改善点）
全体の文章をとでもきれいに発音しています。	이유를のところ少し詰まった感じがします。「를」にアクセントを少し置くと発音しやすいと思います。